

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース, 学校臨床科学コース, 言語系教科マネジメントコース, 社会系教科マネジメントコース, 理数系教科マネジメントコース, グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際 ① (Specialized Theory and Practice in Curriculum Development ①)		
単 位	2 単位	担当教員	關 浩和
必修・選択の別	必修・選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>○教育課程の意義及び編成原理と類型など教育課程に関する基本的事項を理解する。 ○学習指導要領の歴史的変遷と主な特徴を把握し, 新時代における特色あるカリキュラム・マネジメントの理論と効果的な展開力を身に付ける。</p> <p>近年の教育改革では, 特色ある学校づくりが求められるようになってきている。特色ある学校づくりの上で核となるのが, 教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。教育課程は, 学校教育における最も重要な要素であり, それをどのように編成し, 展開していくかが学校教育の主要なテーマである。受講生は, 勤務校の実態に即して, そこに抱える問題や課題を明確にして, 新しい学校教育の展開と特色あるカリキュラムづくりができるようになることを目指している。</p>		
授業の内容・計画	第 1 回	オリエンテーション 現代の教育改革の動向と教育課程の意義についての 15 回の授業内容の概略と進め方, 準備物等の説明を行う。 教育課程 (カリキュラム) の編成原理 教育課程は, 教育基本法や学校教育法, 学校教育法施行規則, 学習指導要領などに基づいて編成されていることや, 「学問中心主義」と「子ども中心主義」という教育課程の編成原理についてケーススタディを行う。	
	第 2 回	国家主義教育課程の成立過程 文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が, 天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。	
	第 3 回	大正期新教育運動によるカリキュラム改革 大正デモクラシーの時代の風潮の中で, 子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。	
	第 4 回	戦後「新教育」のカリキュラム改革 中央集権的で画一的な教育編成を改め, アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。	
	第 5 回	学習指導要領の変遷① (児童中心主義・経験主義の時代) 学習指導要領の変遷を 4 期に分けて, 学習指導要領が改訂されたそれぞれの時代の社会的背景を探りながら, 我が国の学習指導要領変遷及び特徴, 課題を明らかにする。	

第6回	学習指導要領の変遷②（学問中心主義・系統主義の時代） 受講生は、校種別・教科別に学習グループを編成し、ワークショップにより、我が国の学習指導要領の特徴と課題を明らかにする。
第7回	学習指導要領の変遷③（ゆとり教育の時代） 受講生は、各グループでの分析結果を発表し、全体でディスカッションをして、情報の共有化を図る。また、学習指導要領の歴史的変遷を読み解き、ワークショップにより特徴と課題を明らかにする。
第8回	学習指導要領の変遷④（言語力・資質・能力重視の時代） 平成20年版学習指導要領を取り上げ、「確かな学力」をベースにした「生きる力の育成」を打ち出した学習指導要領及び平成29年版学習指導要領を取り上げ、資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要領の特質とその背景についてディスカッションで明らかにする。
第9回	カリキュラムの類型 教育課程の構造（領域論）と教育課程編成の主体（組織論）の視点から教育課程を類型する。さらに、教育課程を編成する際の教育条件についてワークショップによって要素を抽出する。また、領域論による特色あるカリキュラムとして、代表的な三層四領域のカリキュラム及び教育の現代化における具体的な実践事例を手がかりに、カリキュラムづくりの基礎理論について、ケーススタディを実施する。
第10回	組織論による特色あるカリキュラムづくりの理論と実際① R-PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントを基本的事項を理解し、学校の組織と文化をよりよいものに変えていく組織論による手法と学校改善のための5つのアプローチについて、具体的なケーススタディを実施する。
第11回	組織論による特色あるカリキュラムづくりの理論と実際② 学校の教育目標・方針・理念に向かって取り組んでいこうとする教育活動と学校経営の全体構造図であるグランド・デザインの手法を学び、具体的なケーススタディを実施する。
第12回	特色あるカリキュラムの開発と評価① 受講生を勤務校の実態（校種別・規模・地域性等）で学習グループ編成を行い、地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性、学校の教育課題などを視点にした自校の特色あるカリキュラムを分析した上で、改善モデルとして開発する。
第13回	特色あるカリキュラムの開発と評価② 開発された特色あるカリキュラムについてプレゼンテーションを行い、事例研究から抽出されたカリキュラムの課題を克服する方策について校種毎のグループ内でディスカッションする。
第14回	特色あるカリキュラムの開発と評価③ 開発された特色あるカリキュラムについてプレゼンテーションを行い、事例研究から抽出されたカリキュラムの課題を克服する方策について全体でディスカッションする。
第15回	カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割・総括 カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割を考えた上で、講義全体を振り返り、残された疑問点に関する質疑応答とディスカッション、及びまとめを行い、カリキュラム・マネジメント研究の重要性を理解する。

<p>成績評価の方法・ 観点等</p>	<p>成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リフレクションカード（評価割合：60%），発表（プレゼンテーション）（評価割合：20%），最終報告レポート（評価割合：20%）に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラムの歴史の変遷について社会的背景を加味して説明することができる。 ○カリキュラムの構造やカリキュラム開発理論，開発手順等について，留意点とともに説明することができる。 ○カリキュラムの意義や開発・評価に関連する専門的知識を把握し，カリキュラム・マネジメントの手法を理解することができる。 ○現任校のカリキュラム（現任校のない場合は分析対象校のカリキュラム）や研究推進の組織の現状と課題を分析，検討し，その改善プランを提案することができる。
<p>テキスト・教材・ 参考書等</p>	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 關浩和『カリキュラム・マネジメントの理論と方法』兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻，176頁。（2019年3月発行） <p>【参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領及び学習指導要領解説書を適宜参照する。 ・ 授業の中で，適宜プリントを配付する。
<p>事前事後学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキストを事前に読み，次の講義に臨めるようにすること。（全15時間） ・ 授業後に示す課題のレポートを作成すること。（全15時間）
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブ・ラーニング実施科目 ・ 講義で多くの参考資料を配付するのでファイルを用意すること。

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校臨床科学コース, 言語系教科マネジメントコース, 社会系教科マネジメントコース, 理数系教科マネジメントコース, 小学校教員養成特別コース, グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際 ② (Specialized Theory and Practice in Curriculum Development ②)		
単 位	2単位	担当教員	關 浩和
必修・選択の別	必修・選択必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>○教育課程の意義及び編成原理と類型など教育課程に関する基本的事項を理解する。</p> <p>○学習指導要領の歴史の変遷と主な特徴を把握し, 新時代における特色あるカリキュラム・マネジメントの理論と効果的な展開を考える。</p> <p>近年の教育改革では, 特色ある学校づくりが求められるようになっている。特色ある学校づくりの上で核となるのが, 教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。学校現場の経験のない受講生は, 教育課程が, 学校教育における最も重要な要素であり, それをどのように編成し, 展開していくかを認識できることが重要である。我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史の変遷を実践的視点からその諸理論を概観して, 今日の教育改革や教育課程改革を理解し, そこに潜む問題や課題を把握し, 新しい学校教育の展開と特色あるカリキュラムづくりができるようになることを目指している。</p>		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション 現代の教育改革の動向と教育課程の意義についての15回の授業内容の概略と進め方, 準備物等の説明を行う。 教育課程(カリキュラム)の編成原理 教育課程は, 教育基本法や学校教育法, 学校教育法施行規則, 学習指導要領などに基いて編成されていることや, 「学問中心主義」と「子ども中心主義」という教育課程の編成原理についてケーススタディを行う。	
	第2回	国家主義教育課程の成立過程 文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が, 天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。	
	第3回	大正期新教育運動によるカリキュラム改革 大正デモクラシーの時代の風潮の中で, 子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。	
	第4回	戦後「新教育」のカリキュラム改革 中央集権的で画一的な教育編成を改め, アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。	
	第5回	学習指導要領の変遷①(児童中心主義・経験主義の時代) 学習指導要領の変遷を4期に分けて, 学習指導要領が改訂されたそれぞれの時代の社会的背景を探りながら, 我が国の学習指導要領変遷及び特徴, 課題を明らかにする。	

第6回	<p>学習指導要領の変遷②（学問中心主義・系統主義の時代） 受講生は、校種別・教科別に学習グループを編成し、ワークショップにより、我が国の学習指導要領の特徴と課題を明らかにする。</p>
第7回	<p>学習指導要領の変遷③（ゆとり教育の時代） 受講生は、各グループでの分析結果を発表し、全体でディスカッションをして、情報の共有化を図る。また、学習指導要領の歴史の変遷を読み解き、ワークショップにより特徴と課題を明らかにする。</p>
第8回	<p>学習指導要領の変遷④（言語力・資質・能力重視の時代） 平成20年版学習指導要領を取り上げ、「確かな学力」をベースにした「生きる力の育成」を打ち出した学習指導要領及び平成29年版学習指導要領を取り上げ、資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要領の特質とその背景についてディスカッションで明らかにする。</p>
第9回	<p>カリキュラムの類型 教育課程の構造（領域論）と教育課程編成の主体（組織論）の視点から教育課程を類型する。さらに、教育課程を編成する際の教育条件についてワークショップによって要素を抽出する。また、領域論による特色あるカリキュラムとして、代表的な三層四領域のカリキュラム及び教育の現代化における具体的な実践事例を手がかりに、カリキュラムづくりの基礎理論について、ケーススタディを実施する。</p>
第10回	<p>組織論による特色あるカリキュラムづくりの理論と実際① R-PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントを基本的事項を理解し、学校の組織と文化をよりよいものに変えていく組織論による手法と学校改善のための5つのアプローチについて、具体的なケーススタディを実施する。</p>
第11回	<p>組織論による特色あるカリキュラムづくりの理論と実際② 学校の教育目標・方針・理念に向かって取り組んでいこうとする教育活動と学校経営の全体構造図であるグランド・デザインの手法を学び、具体的なケース・スタディを実施する。</p>
第12回	<p>特色あるカリキュラムの開発と評価① 受講生の実態（校種別・規模・地域性等）で学習グループ編成を行い、地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性、学校の教育課題などを視点にした特色あるカリキュラムを分析した上で、改善モデルとして開発する。</p>
第13回	<p>特色あるカリキュラムの開発と評価② 開発された特色あるカリキュラムについてプレゼンテーションを行い、事例研究から抽出されたカリキュラムの課題を克服する方策について校種毎のグループ内でディスカッションする。</p>
第14回	<p>特色あるカリキュラムの開発と評価③ 開発された特色あるカリキュラムについてプレゼンテーションを行い、事例研究から抽出されたカリキュラムの課題を克服する方策について全体でディスカッションする。</p>
第15回	<p>カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割・総括 カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割を考えた上で、講義全体を振り返り、残された疑問点に関する質疑応答とディスカッション、及びまとめを行い、カリキュラム・マネジメント研究の重要性を理解する。</p>

<p>成績評価の方法・ 観点等</p>	<p>成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リフレクションカード（評価割合：60%），発表（プレゼンテーション）（評価割合：20%），最終報告レポート（評価割合：20%）に授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラムの歴史的変遷について社会的背景を加味して説明することができる。 ○カリキュラムの構造やカリキュラム開発理論，開発手順等について，留意点とともに説明することができる。 ○カリキュラムの意義や開発・評価に関連する専門的知識を把握し，カリキュラム・マネジメントの手法を理解することができる。 ○分析対象校のカリキュラムや研究推進の組織の現状と課題を分析，検討し，その改善プランを提案することができる。
<p>テキスト・教材・ 参考書等</p>	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・關浩和『カリキュラム・マネジメントの理論と方法』兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻，176頁。（2019年3月発行） <p>【参考書等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領及び学習指導要領解説書を適宜参照する。 ・授業の中で，適宜プリントを配付する。
<p>事前事後学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを事前に読み，次の講義に臨めるようにすること。（全15時間） ・授業後に示す課題のレポートを作成すること。（全15時間）
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニング実施科目 ・講義で多くの参考資料を配付するのでファイルを用意すること。

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース, 学校臨床科学コース, 言語系教科マネジメントコース, 社会系教科マネジメントコース, 理数系教科マネジメントコース, 小学校教員養成特別コース, グローバル化推進教育リーダーコース				
授業科目名 (英 文 名)	教育課程の制度的特質と課題 ① (Contemporary Issues in Curriculum Studies ①)						
単 位	2単位	担当教員	森 秀樹 猪本 修 羽田 潤 吉田 達弘 川内 充延				
必修・選択の別	必修・選択必修						
授業の方法	オンラインによる講義と課題						
標準履修年次	1年次						
開講学期	前期						
授業のテーマ 及び到達目標	<p>1) グローバル化・情報化の進展にともなう教育の変容について理解するとともに、その変容への対応の仕方について具体的な教科を事例として教育課程の柱を構想することができる。</p> <p>2) 自然科学と環境・エネルギー問題および自然災害に関するリテラシーと学習指導要領上の指導指針を理解し、自らの考えを述べることも、小中学校での授業を主体的に構成することができる。</p> <p>3) 国語科の課題に対して探究的に取り組み、教育課程に関する自分の考えを文章にまとめることができる。</p> <p>4) グローバル化が国や地域・学校での教育課程にどのような影響を与えているか報告することができる。また、特定の教科と外国語教育を横断的にとらえる教育課程のアプローチを述べることができる。</p> <p>5) 教育の質保証、地域のニーズに応える教育課程について、自分の考えを述べることができる。算数・数学の学習課題に対して探究的に取り組むことができる。</p> <p>6) 児童・生徒が学ぶ諸教科の特質と課題を理解した上で、各自の立場からどのような寄与が可能かについて総合的な観点に立って考えることができる。</p>						
授業の内容・計画	<p>2020年度の授業はすべてオンラインで実施します。1) Teams や Zoom を用いた同期型授業、2) LiveCampus や Teams によって配信するコンテンツによる非同期型授業、3) LiveCampus 経由での課題の提出の組合せにより行います。各回の受講の形態については LiveCampus 経由で指示をします。</p> <p>(第1回～第3回) 5/19に Teams によるガイダンスを行い、第1回と第2回のコンテンツの学習について指示を行います。5/26には第3回のコンテンツと課題を公開します。課題の締切は6/1です。質疑応答は Teams で受け付けます。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">第1回 5/19</td> <td>グローバル化による人間と社会の変容 (担当: 森秀樹)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第2回 5/19</td> <td>グローバル化による教育観の変化と学習指導要領 (担当: 森秀樹)</td> </tr> </table>			第1回 5/19	グローバル化による人間と社会の変容 (担当: 森秀樹)	第2回 5/19	グローバル化による教育観の変化と学習指導要領 (担当: 森秀樹)
第1回 5/19	グローバル化による人間と社会の変容 (担当: 森秀樹)						
第2回 5/19	グローバル化による教育観の変化と学習指導要領 (担当: 森秀樹)						

第3回 5/26	新しい教育観における社会認識と市民的資質の形成 (担当: 森秀樹)
(第4回～第6回) Teams または Zoom を使って、資料や課題を提示しながら進める同期型授業を行います。第6回の内容については、第4回と第5回の内容に関連づけ、適宜盛り込む予定です。第4回と第5回の課題の締切は6月15日です。	
第4回 6/2	日英の教育動向と教育の質保証 (担当: 川内充延)
第5回 6/9	日英の初等・中等学校と地域のニーズ (担当: 川内充延)
第6回	Rich Taskに見る数学学習 (担当: 川内充延)
(第7回～第9回) Zoom と Teams を併用して授業を行います (主として Zoom を使います)。Zoom ではスライドやホワイトボードによる説明を行うとともに、グループディスカッションによる意見集約を実施します。	
第7回 6/16	現代社会における自然観と科学技術の変遷・変容 (担当: 猪本修)
第8回 6/23	理科教育の不易と流行: 子どもの自然認識と AI 時代の要請 (担当: 猪本修)
第9回	理科と他教科との横断的な見方と連携的な授業のあり方 (担当: 猪本修)
(第10回～第12回) 6/30 (第10回) と 7/7(第11回) は、Zoom と Teams を併用した同期型授業を行います。第12回については、コンテンツと課題を配信する非同期型授業となります。課題の締切は、7月13日です。	
第10回 6/30	学習指導要領における外国語教育の位置づけ (担当: 吉田達弘)
第11回 7/7	学校英語教育におけるコミュニケーション能力観の変遷 (担当: 吉田達弘)
第12回	外国語教育と他教科の横断的アプローチ (担当: 吉田達弘)
(第13回～第15回) Teams を使いながら資料や課題の配布、チャンネルでのグループ討議、または可能であれば Teams や Zoom を使ったグループディスカッションを行っていきたいと考えています。	
第13回 7/14	学習指導要領における国語科の「資質・能力」 (担当: 羽田潤)
第14回 7/21	イギリスナショナルカリキュラムにおける国語科との比較 (担当: 羽田潤)
第15回	国語科における「主体的・対話的で深い学び」へのアプローチ (担当: 羽田潤)
成績評価の方法・ 観点等	授業で課す課題により総合的に評価する。各教員の配点比率は次のとおりである。 森: 20点, 猪本: 20点, 羽田: 20点, 吉田: 20点, 川内: 20点 課題においては、授業の「到達目標」に示された観点に即して評価を行う。

<p>テキスト・教材・ 参考書等</p>	<p>【テキスト】 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜資料を配付する。</p>
<p>事前事後学修</p>	<p>事前に上記テキストに目を通しておき、事後は配付資料を学習するとともに、指示された課題をおこなうこと（全60時間程度）。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>現代社会において、児童・生徒は多様な資質・能力を形成することが求められているが、学校教育ではその育成は主として教科の枠組みから行われている。この講義では、求められる資質・能力とその教育のあり方の特質と課題を総合的に学ぶことを目的としている。その際、諸教科の事例を用いることになるが、それは教科の教授法を目的としたものではない。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース, 学校臨床科学コース, 言語系教科マネジメントコース, 社会系教科マネジメントコース, 理数系教科マネジメントコース, 小学校教員養成特別コース, グローバル化推進教育リーダーコース				
授業科目名 (英 文 名)	教育課程の制度的特質と課題 ② (Contemporary Issues in Curriculum Studies ②)						
単 位	2単位	担当教員	森 秀樹 猪本 修 羽田 潤 吉田 達弘 川内 充延				
必修・選択の別	必修・選択必修						
授 業 の 方 法	オンラインによる講義と課題						
標準履修年次	1年次						
開 講 学 期	前期						
授業のテーマ 及び到達目標	<p>1) グローバル化・情報化の進展にともなう教育の変容について理解するとともに、その変容への対応の仕方について具体的な教科を事例として教育課程の柱を構想することができる。</p> <p>2) 自然科学と環境・エネルギー問題および自然災害に関するリテラシーと学習指導要領上の指導指針を理解し、自らの考えを述べることも、小中学校での授業を主体的に構成することができる。</p> <p>3) 国語科の課題に対して探究的に取り組み、教育課程に関する自分の考えを文章にまとめることができる。</p> <p>4) グローバル化が国や地域・学校での教育課程にどのような影響を与えているか報告することができる。また、特定の教科と外国語教育を横断的にとらえる教育課程のアプローチを述べることができる。</p> <p>5) 教育の質保証、地域のニーズに応える教育課程について、自分の考えを述べることができる。算数・数学の学習課題に対して探究的に取り組むことができる。</p> <p>6) 児童・生徒が学ぶ諸教科の特質と課題を理解した上で、各自の立場からどのような寄与が可能かについて総合的な観点に立って考えることができる。</p>						
授業の内容・計画	<p>2020年度の授業はすべてオンラインで実施します。1) Teams や Zoom を用いた同期型授業、2) LiveCampus や Teams によって配信するコンテンツによる非同期型授業、3) LiveCampus 経由での課題の提出の組合せにより行います。各回の受講の形態については LiveCampus 経由で指示をします。</p> <p>(第1回～第3回) 5/19に Teams によるガイダンスを行い、第1回と第2回のコンテンツの学習について指示を行います。5/26には第3回のコンテンツと課題を公開します。課題の締切は6/1です。質疑応答は Teams で受け付けます。</p> <table border="1" data-bbox="363 1823 1449 2024"> <tr> <td>第1回 5/19</td> <td>グローバル化による人間と社会の変容 (担当: 森秀樹)</td> </tr> <tr> <td>第2回 5/19</td> <td>グローバル化による教育観の変化と学習指導要領 (担当: 森秀樹)</td> </tr> </table>			第1回 5/19	グローバル化による人間と社会の変容 (担当: 森秀樹)	第2回 5/19	グローバル化による教育観の変化と学習指導要領 (担当: 森秀樹)
第1回 5/19	グローバル化による人間と社会の変容 (担当: 森秀樹)						
第2回 5/19	グローバル化による教育観の変化と学習指導要領 (担当: 森秀樹)						

第3回 5/26	新しい教育観における社会認識と市民的資質の形成 (担当: 森秀樹)
(第4回～第6回) Teams または Zoom を使って、資料や課題を提示しながら進める同期型授業を行います。第6回の内容については、第4回と第5回の内容に関連づけ、適宜盛り込む予定です。第4回と第5回の課題の締切は6月15日です。	
第4回 6/2	日英の教育動向と教育の質保証 (担当: 川内充延)
第5回 6/9	日英の初等・中等学校と地域のニーズ (担当: 川内充延)
第6回	Rich Taskに見る数学学習 (担当: 川内充延)
(第7回～第9回) Zoom と Teams を併用して授業を行います (主として Zoom を使います)。Zoom ではスライドやホワイトボードによる説明を行うとともに、グループディスカッションによる意見集約を実施します。	
第7回 6/16	現代社会における自然観と科学技術の変遷・変容 (担当: 猪本修)
第8回 6/23	理科教育の不易と流行: 子どもの自然認識と AI 時代の要請 (担当: 猪本修)
第9回	理科と他教科との横断的な見方と連携的な授業のあり方 (担当: 猪本修)
(第10回～第12回) 6/30 (第10回) と 7/7(第11回) は、Zoom と Teams を併用した同期型授業を行います。第12回については、コンテンツと課題を配信する非同期型授業となります。課題の締切は、7月13日です。	
第10回 6/30	学習指導要領における外国語教育の位置づけ (担当: 吉田達弘)
第11回 7/7	学校英語教育におけるコミュニケーション能力観の変遷 (担当: 吉田達弘)
第12回	外国語教育と他教科の横断的アプローチ (担当: 吉田達弘)
(第13回～第15回) Teams を使いながら資料や課題の配布、チャンネルでのグループ討議、または可能であれば Teams や Zoom を使ったグループディスカッションを行っていきたいと考えています。	
第13回 7/14	学習指導要領における国語科の「資質・能力」 (担当: 羽田潤)
第14回 7/21	イギリスナショナルカリキュラムにおける国語科との比較 (担当: 羽田潤)
第15回	国語科における「主体的・対話的で深い学び」へのアプローチ (担当: 羽田潤)
成績評価の方法・ 観点等	授業で課す課題により総合的に評価する。各教員の配点比率は次のとおりである。 森: 20点, 猪本: 20点, 羽田: 20点, 吉田: 20点, 川内: 20点 課題においては、授業の「到達目標」に示された観点に即して評価を行う。

<p>テキスト・教材・ 参考書等</p>	<p>【テキスト】 小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年6月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）</p> <p>【参考書等】 授業中に適宜資料を配付する。</p>
<p>事前事後学修</p>	<p>事前に上記テキストに目を通しておき、事後は配付資料を学習するとともに、指示された課題をおこなうこと（全60時間程度）。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>現代社会において、児童・生徒は多様な資質・能力を形成することが求められているが、学校教育ではその育成は主として教科の枠組みから行われている。この講義では、求められる資質・能力とその教育のあり方の特質と課題を総合的に学ぶことを目的としている。その際、諸教科の事例を用いることになるが、それは教科の教授法を目的としたものではない。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	授業の指導計画と教材研究の演習 (Seminar in Lesson Planning and Teaching Materials Analysis)		
単 位	2単位	担当教員	羽田 潤，田中 雅和，山口 眞琴，菅井 三実，岡崎 渉，池田 匡史，大嶋 浩，有働眞理子，近藤 暁子，鳴海 智之，米田 豊，原田 誠司，南埜 猛，小南 浩一，難波 安彦，國岡 高宏，濱中 裕明，小川 聖雄，吉川 昌慶，庭瀬 敬右，小和田善之，山本 将也，澁江 靖弘，河内 勇，野本 立人，河邊 昭子，高木 厚子，喜多村明里，村上 裕介，大西 久，浅海 真弓，上原 禎弘，中須賀 巧，小田 俊明，有山 篤利，山本 忠志，筒井 茂喜，森山 潤，小山 英樹，森廣浩一郎，掛川 淳一，小川 修史，永田 智子，花輪 由樹
必修・選択の別	必修・選択必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	前期		
授業の目標及び期待される学習効果	授業では、教科における学習指導構想と指導案作成の理論を習得し、それぞれの授業モデルを学習指導案として明示できる資質と能力を身に付けることが期待される。		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション その1 ・本授業の目標、期待される学習効果、成績評価のあり方について、オリエンテーションを行う。 ・本授業を構成する教科、科目の第3回目から第12回目までの授業内容について、オリエンテーションを行う。	
	第2回	オリエンテーション その2 ・本授業を構成する教科、科目の第3回目から第12回目までの授業内容について、オリエンテーションを行う。 ・院生は第3回目から履修する教科を設定する。	
	第3回	初等教育における教材研究（講義・演習）その1 ・平成28年度版学習指導要領におけるキーワード（資質・能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、カリキュラムマネジメント、見方・考え方、習得・活用・探究、言語能力等）を視点に、教科カリキュラムを構成するための講義を行う。 ・その際、いくつかの視点を決めてグループ討議を行い、その成果を踏まえて、講義を拡充、深化させる。	

第4回	<p>初等教育における教材研究（講義・演習） その2</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度版学習指導要領におけるキーワード（資質・能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、カリキュラムマネジメント、見方・考え方、習得・活用・探究、言語能力等）を視点に、教科カリキュラムを構成するための講義を行う。 その際、いくつかの視点を決めてグループ討議を行い、その成果を踏まえて、講義を拡充、深化させる。
第5回	<p>中等教育における教材研究（講義・演習）その1</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度版学習指導要領におけるキーワード（資質・能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、カリキュラムマネジメント、見方・考え方、習得・活用・探究、言語能力等）を視点に、教科カリキュラムを構成するための講義を行う。 その際、いくつかの視点を決めてグループ討議を行い、その成果を踏まえて、講義を拡充、深化させる。
第6回	<p>中等教育における教材研究（講義・演習）その2</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度版学習指導要領におけるキーワード（資質・能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、カリキュラムマネジメント、見方・考え方、習得・活用・探究、言語能力等）を視点に、教科カリキュラムを構成するための講義を行う。 その際、いくつかの視点を決めてグループ討議を行い、その成果を踏まえて、講義を拡充、深化させる。
<p>第7回から第12回では、受講者がこれまでに実施・立案した学習指導案（現職院生は自身の学習指導案、ストレート院生は教育実習の学習指導案または任意の学習指導案）を元にケーススタディを行う。</p>	
第7回	<p>授業立案のためのケーススタディ（1） 主として初等教育に関して、受講者からの指導案についてケーススタディすることで、課題を分析する。</p>
第8回	<p>授業改善のためのケーススタディ（1） 前回の課題分析を踏まえて、学習指導案の改善案を検討し、模擬授業を行う。</p>
第9回	<p>授業立案のためのケーススタディ（2） 主として中等教育に関して、受講者からの指導案についてケーススタディすることで、課題を分析する。</p>
第10回	<p>授業改善のためのケーススタディ（2） 前回の課題分析を踏まえて、学習指導案の改善案を検討し、模擬授業を行う。</p>
第11回	<p>授業立案のためのケーススタディ（3） 主として中等教育に関して、受講者からの指導案についてケーススタディすることで、課題を分析する。</p>
第12回	<p>授業改善のためのケーススタディ（3） 前回の課題分析を踏まえて、学習指導案の改善案を検討し、模擬授業を行う。</p>
第13回	<p>全体での学びの共有 その1</p>
第14回	<p>全体での学びの共有 その2</p>
第15回	<p>全体での学びの共有 その3 授業のまとめ</p>
成績評価の方法・評価項目・観点等	<p>討議・発表等授業への貢献度（40%）、レポート（60%）</p>

テキスト・教材・ 参考書等	【テキスト】 適宜配付する。 【参考資料等】 幼稚園教育要領、学習指導要領及び学習指導要領解説を適宜使用する。
事前事後学修	
そ の 他	

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	授業における評価の基準作成理論と学力評価法 ① (Theory of Authentic Assessment and Methods of Educational Evaluation ①)		
単 位	2単位	担当教員	勝見 健史 奥村 好美 徳島 祐彌 榎並 雅之
必修・選択の別	必修・選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	教科・総合的な学習の時間の授業における教育評価の基礎的な理論、及び児童・生徒の学力の評価方法について理解し、教育評価にもとづいて教育活動を修正・改善するにあたっての手がかりを得ることができる。		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーション（奥村・徳島） 本講義の全体構成と進行計画を概観する。教育評価の本来の目的・意義を理解する。	
	第2回	教育評価の歴史と機能①（徳島） 戦前からの教育評価の史的展開を概観する。そのなかで、絶対評価、相対評価、個人内評価、目標に準拠した評価それぞれの評価の目的や機能を考える。	
	第3回	教育評価の歴史と機能②（徳島） 戦前からの教育評価の史的展開を概観する。そのなかで、絶対評価、相対評価、個人内評価、目標に準拠した評価それぞれの評価の目的や機能を考える。	
	第4回	求められる資質・能力とパフォーマンス評価法（奥村） 近年、求められるようになってきている資質・能力について検討する。	
	第5回	パフォーマンス評価の事例（奥村） パフォーマンス評価に関する様々な教科の事例を検討する。	
	第6回	ルーブリック作成ワークショップ（奥村） 実際の作品にもとづいて、グループ討議を通じて、ルーブリックを作成する。	
	第7回	「逆向き設計」論にもとづく単元設計(1)目標設定（徳島） 「逆向き設計」論にもとづき、求められている結果（目標）を考える。	
	第8回	「逆向き設計」論にもとづく単元設計(2)評価（徳島） 「逆向き設計」論にもとづき、求められている結果（目標）と対応した評価方法を考える。	
	第9回	「逆向き設計」論にもとづく単元設計(3)学習・指導計画（徳島） 「逆向き設計」論にもとづき、求められている結果（目標）や評価方法と対応した指導・学習計画を考える。	

	第10回	相互検討会（徳島） 設計した単元計画にもとづき議論し、改善するために検討を行う。
	第11回	ポートフォリオ評価法の理論（奥村） ポートフォリオ評価法に関する基本的な考え方を理解する。
	第12回	総合的な学習におけるポートフォリオ評価法の事例（奥村） 総合的な学習におけるポートフォリオ評価法の実践事例を検討し、評価の在り方について考える。
	第13回	ポートフォリオ評価法の多様な展開（奥村） 教科や総合的な学習等におけるポートフォリオ評価法の多様な展開を検討し、評価の在り方について考える。
	第14回	高等学校における探究学習の教育評価（徳島） 高等学校における探究学習の教育評価について、これまでの理論をふまえ、具体的な実践事例を検討し、評価の在り方について考える。
	第15回	まとめと振り返り（前期：徳島、後期：奥村） まとめとして、この授業において学んだことについて、全体をふり返る。
成績評価の方法・観点等		ワークシートなどの提出状況（30%）、評価論をふまえた単元計画とその解説（70%）以下の到達目標を観点に評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の授業における評価基準作成の理論と方法について理解している。 ・教科等の指導計画作成において学力評価案を構成することができる。 ・評価の基準を児童・生徒の実態に即して更新する方法を理解している。
テキスト・教材・参考書等		【テキスト】 奥村好美、西岡加名恵（編）『「逆向き設計」実践ガイドブック—『理解をもたらすカリキュラム設計』を読む・活かす・共有する』日本標準、2020年。
事前事後学修		事前学習（30時間）：事前にテキストの該当箇所を読み、予習を行う。 事後学習（30時間）：授業時に配付した資料を振り返ったり、テキストを読み直したりすることを通じて、学び深めを行う。
その他		アクティブ・ラーニング実施科目

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	授業における評価の基準作成理論と学力評価法 ② (Theory of Authentic Assessment and Methods of Educational Evaluation ②)		
単 位	2単位	担当教員	勝見 健史 奥村 好美 徳島 祐彌 榎並 雅之
必修・選択の別	必修・選択必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>教科・特別活動・総合的な学習の時間の各授業における評価規準と評価基準の作成理論とその方法，及び児童・生徒の学力の評価方法について理解し，その実践力を培うことを目標とする。この科目では，各教科・特別活動・総合的な学習の時間において児童・生徒が身に付けるべき資質・能力の水準の程度を確定し，その水準の程度を明示する評価規準と評価基準を具体的に作成する方法を習得でき，かつ児童・生徒の資質・能力の具体を的確に把握し解釈する学力評価の方法についても，具体的な授業実践の事例分析の演習をもとに習得することができる。なお，現職教員以外の者は，具体的な教育評価に関する実践が分かり易く理解できるように，評価基準と学力評価法について豊富な実践事例集の中から収集し，より実践の具体に即して理解し，作成できるようにする。</p>		
授業の内容・計画	第1回	<p>オリエンテーション (勝見)</p> <p>本講義の全体構成と進行計画を概観する。わが国の学校教育現場における教育評価の位置づけと課題について把握する。</p>	
	第2回	<p>教師の専門的・力量としての教育評価 (勝見)</p> <p>教師の専門性の視座から教育評価を理解し，教育鑑識眼の内容と重要性について理解する。</p>	
	第3回	<p>教育評価の意義 (勝見)</p> <p>教育評価の定義と意義を理解し，教育評価が学校教育現場においてどのような目的で行われているかについて理解する。</p>	
	第4回	<p>教育評価の変遷 (勝見)</p> <p>これまでの教育評価をわが国の学習指導要領の変遷を視点を概観し，それぞれの時期における教育評価の教育実践上の課題について考える。</p>	
	第5回	<p>教育評価の類型 (勝見)</p> <p>準拠する枠組みによる類型方法について理解し，認定評価，相対評価，到達度評価，個人内評価のそれぞれの評価の方法と特質を理解する。</p>	

第6回	<p>目標準拠評価における指導と評価の一体化（勝見）</p> <p>目標準拠評価の特質および、評価規準に照らした形成的な「指導と評価の一体化」の意味と意義について理解する。</p>
第7回	<p>形成的評価による評価の実際【演習①】（勝見）</p> <p>具体的な授業における児童・生徒の資質・能力の水準の程度を把握するための目標準拠評価について実践事例を通して理解し、教科（主として国語科）における学習者の表現をどのように評価するか考える。</p>
第8回	<p>形成的評価による評価の実際【演習②】（勝見）</p> <p>演習①の結果を協働的に検討し、学びの質を高めるためのフィードフォワードの働きかけ方について話し合う。また、評価の妥当性・信頼性について考える。</p>
第9回	<p>総合的な学習における評価法（勝見）</p> <p>総合的な学習の特質、および学校教育現場における総合的な学習の指導と評価の現状と課題を理解し、児童・生徒の活動の質的評価を行う方法について理解する。</p>
第10回	<p>新しい評価としてのポートフォリオ評価法（勝見）</p> <p>児童・生徒の活動の質的評価を行うための具体的方法として、ポートフォリオ評価法の意義・内容・方法について理解する。</p>
第11回	<p>算数科における指導と評価の概観（榎並）</p> <p>算数科の内容と特質を理解し、学校教育現場における算数科の指導と評価にかかわる現状と課題について把握する。</p>
第12回	<p>算数科における評価理論①（榎並）</p> <p>算数科の観点別評価「技能」「知識・理解」の在り方について理解し、学校教育現場の実践事例を通してその課題を焦点化する。</p>
第13回	<p>算数科における評価法【演習①】（榎並）</p> <p>算数科の観点別評価「技能」「知識・理解」の評価法について理解し、学習指導案における評価規準の作成演習を通して具体的な指導と評価の在り方を検討する。</p>
第14回	<p>算数科における評価理論②（榎並）</p> <p>算数科の観点別評価「数学的な考え方」の在り方について理解し、学校教育現場の実践事例を通してその課題を焦点化する。</p>

	<p>第15回 算数科における評価法【演習②】（榎並）</p> <p>算数科の観点別評価「技能」「知識・理解」の評価法について理解し、学習指導案における評価規準の作成演習を通して具体的な指導と評価の在り方を検討する。</p>
成績評価の方法・観点等	<p>課題レポートの提出状況（50%）、演習・発表（30%）、授業への参加度・貢献度（20%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートについては、講義内容と関連付いた考察が行われているかを評価する。 ・演習・発表については、講義内容の理解の上にとって妥当性のある判断を行おうとしているかを評価する。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の授業における評価の基準作成の方法について理解している。 ・教科等の指導計画作成における評価計画案を構成することができる。 ・児童・生徒の実態に即して、教科等における学力評価法を実践できる。 ・評価の基準を児童・生徒の実態に即して更新する方法を理解し、実践的に評価の基準の更新ができる。
テキスト・教材・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・教員から配付される教材（プリント等）を中心に授業を進める ・勝見健史『「活用」の学習で鍛える国語学力ー単元・本時デザインの具体的方法ー』（文溪堂）・・・小学校国語科の事例の参考書
事前事後学修	<p>事前学修（30時間）：自身の小・中・高等学校時代の授業の経験、および教育実習の経験の中で、評価に関して課題を感じた場면을想起し、その理由・原因について整理しておく。</p> <p>事後学修（30時間）：学んだ評価の考え方や方法をもとに、自身が授業を行う際に特に留意したい点を焦点化し、活動計画に評価計画を内包させて具体的な指導計画を構想する。</p>
その他	<p>全ての学校種・教科の事例を対象に講義・演習を行うものではないので、本講義で解説する評価の考え方を援用・応用する姿勢で臨んでほしい。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	包括的児童生徒支援に関する事例研究 ① (Case Study on Comprehensive Support for Students ①)		
単 位	1 単位	担当教員	松本 剛 隈元 みちる 山本 真也
必修・選択の別	必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>本授業の目的は、生徒指導、学校教育相談や特別支援教育と関連するいじめ、不登校、学力不振、高校中退、学級崩壊、校内暴力、非行（家出・万引き・暴走行為等）、性非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待、薬物乱用、ネット犯罪、自殺等の複雑かつ深刻な様相を呈する児童生徒に関わる情勢を理解し、心の問題への対応、インクルーシブ教育との関連、学校の危機管理、学校と家庭や地域社会、関係機関との連携システムづくり等に関する生徒指導実践力の向上を図ることにある。</p> <p>この目的を達成するために、問題の理解を背景にした諸課題解決のための実践的方法について総合的な視点から検討を加える。特に、具体的仮想事例をもとにした、事例検討を中心とした参加型の実践形式を授業に加える。</p> <p>期待される学習効果としては、受講者が児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動に対応できる実践的指導力を向上させることがあげられる。あわせて、今後ますます必要とされる学校における危機管理能力や学校内外での連携を進めるコーディネート能力を向上させる場ともしたい。本授業は8回の遠隔授業によって実施する。</p>		
授業の内容・計画	第1回	児童生徒の問題行動の現状と理解【講義】【演習】 本授業のテーマである事例研究を行う意味について、特に職場の関係性との関連を考える。次に、児童生徒の問題行動の現状をデータに基づいて把握するとともに、その心理的・社会的背景について考察し、最近の問題行動の特質を理解する。(講義；松本，事例検討進行；松本，事例検討のまとめ；隈元・山本)	
	第2回	児童生徒の問題行動と思春期・青年期の課題【講義】 非社会的問題行動について、思春期・青年期の発達課題及び現代社会における心理的傾向の変化という視点からアプローチし、心理学的理解を深める。不登校・ひきこもりについて臨床心理学的アプローチによる検討を行い、非社会的問題行動への対応の理論と具体的方法について学ぶ。(講義；松本)	
	第3回	保護者対応の課題と対応【講義・演習】 多角化する保護者対応の課題と現状について整理し、家庭との連携を図るうえでの保護者対応の重要性について理解を深め、実際の対応に関する演習を行いその対応について模索する。(講義・演習；松本)	

第4回	児童生徒の問題行動と発達障がい【講義】 学校生活や家庭生活に困難を持つ児童生徒に対して、発達障がいへの理解という視点からアプローチする方法について学ぶ。臨床心理学的なアセスメントや援助方法について、具体的事例をもとに理解を深める。(講義；山本)
第5回	問題行動への組織的対応に関する事例研究【ケーススタディ】 問題行動への組織的対応の理論と方法を学ぶ。具体的仮想事例を用いて、チーム援助の具体的方法についてジェノグラムの作成と参加型事例研究法を実習する。(進行；隈元)
第6回	問題行動への多面的理解に基づく対応の事例研究【ケーススタディ】 多面的理解に基づく問題行動への対応について、仮想事例をとりあげ、参加者間の相互作用により解決策を探るグループ体験を基盤とした事例研究法について体験的に学ぶ。(松本・隈元・山本)
第7回	問題行動への多面的理解に基づく対応の事例研究【ケーススタディ】 多面的理解に基づく問題行動への対応について、仮想事例をとりあげ、参加者間の相互作用により解決策を探るグループ体験を基盤とした事例研究法について体験的に学ぶ。(松本・隈元・山本)
第8回	これからの生徒指導の方向性と課題【発表・ディスカッション】 前半) 多面的理解に基づく問題行動への対応について、仮想事例をとりあげ、参加者間の相互作用により解決策を探るグループ体験を基盤とした事例研究法について体験的に学ぶ。(松本・隈元・山本) 後半) 児童生徒の問題行動の背景にある心理・社会的要因についての理解に立ち、学校教育現場における生徒指導上の課題への対応について、各校種ごとに協議し、その結果を発表するとともに全体で意見交換し、これからの生徒指導の取り組みの方向性を探る。(全体進行；松本，まとめ；隈元・山本)
成績評価の方法・観点等	【到達目標】 1 児童生徒の内的葛藤や問題行動を的確に理解し、適切に対処することができる。児童生徒の問題行動、保護者対応などについて、その現状を理解し、演習を通じて、その指導のあり方について理解し自分の意見を持つことができる。 2 生徒指導の多様な方法を理解し、チーム援助に基づく実践を行うことができる。 3 事例研究をもとに、自分自身をふりかえるとともに、多角的な生徒指導につなげることができ、生徒指導のありかたについて再考することができる。コーディネート能力を身につけ、学校内外での連携を進めることができる。 【評価の観点】 1 授業における積極的な参加、討議における他者との円滑で促進的な態度 2 事例研究の内容(質的な充実度)とそのふりかえり、及び考察 3 他者の事例へのかかわりにおける気づき(レポート) これらを総合的に判定する。 【成績評価の方法】 授業における協議、討論等への参加度(30%)および発表・事例研究における発言等授業への貢献度(20%)、事例提示レポート(20%)、課題に関する最終レポート(30%)を合算して評価する。

テキスト・教材・参考書等	<p>授業時に資料を配付する。参考文献については適宜指示する。</p> <p>参考図書：文部科学省（2010）「生徒指導提要」（教育図書） 村山正治・中田行重（2012）「新しい事例検討法 PCAGIP法入門」（創元社）</p>
事前事後学修	<p>前半の授業（講義中心）においては、シラバスに示された内容、次回の授業に向けて提示する課題に関する関連図書・論文等に目を通す。また、後半の授業においては、事例研究やディスカッションの方法を、<u>受講者間での協議を課外において行うことができるよう学びを深めることが望ましい</u>。授業後は、配付資料等を活用し、授業内容の振り返りを行う。</p> <p>【事前】 授業の前に自分自身の課題・事例について整理し、その概要をまとめておくと授の理解についての深まりが増すと思われる。事前に授業で用いる内容の資料を示すので、授業に関する理論的背景を事前に学び、授業においてそれらへのコメント・疑問を授業中に提出できるよう準備しておく。（16時間）</p> <p>【事後】 各時間における授業で学んだ内容についてまとめ、それをもとに学びのレポートを作成しておくこと。本資料は最後の授業時のディスカッションの材料となる。最後に全体に関する総合レポートを提出する。（16時間）</p>
その他	<p>事例研究・協議を中心としたアクティブ・ラーニングを実施する。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース, 学校臨床科学コース, 言語系教科マネジメントコース, 社会系教科マネジメントコース, 理数系教科マネジメントコース, 小学校教員養成特別コ
授業科目名 (英 文 名)	包括的児童生徒支援に関する事例研究 ② (Case Study on Comprehensive Support for Students ②)		
単 位	1 単位	担当教員	松本 剛 隈元 みちる 山本 真也
必修・選択の別	必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>本授業の目的は、生徒指導、学校教育相談や特別支援教育と関連するいじめ、不登校、学力不振、高校中退、学級崩壊、校内暴力、非行（家出・万引き・暴走行為等）、性非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待、薬物乱用、ネット犯罪、自殺等の複雑かつ深刻な様相を呈する児童生徒に関わる情勢を理解し、心の問題への対応、インクルーシブ教育との関連、学校の危機管理、学校と家庭や地域社会、関係機関との連携システムづくり等に関する生徒指導実践力の向上を図ることにある。</p> <p>この目的を達成するために、問題の理解を背景にした諸課題解決のための実践的方法について総合的な視点から検討を加える。特に、具体的仮想事例をもとにした、事例検討を中心とした参加型の実践形式を授業に加える。</p> <p>期待される学習効果としては、受講者が児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動に対応できる実践的指導力を向上させることがあげられる。あわせて、今後ますます必要とされる学校における危機管理能力や学校内外での連携を進めるコーディネイト能力を向上させる場ともしたい。本授業は8回の遠隔授業によって実施する。</p>		
授業の内容・計画	第1回	児童生徒の問題行動の現状と理解【講義】【演習】 本授業のテーマである事例研究を行う意味について、特に職場の関係性との関連を考える。次に、児童生徒の問題行動の現状をデータに基づいて把握するとともに、その心理的・社会的背景について考察し、最近の問題行動の特質を理解する。(講義；松本, 事例検討進行；松本, 事例検討のまとめ；山本)	
	第2回	児童生徒の問題行動と思春期・青年期の課題【講義】 非社会的問題行動について、思春期・青年期の発達課題及び現代社会における心理的傾向の変化という視点からアプローチし、心理学的理解を深める。不登校・ひきこもりについて臨床心理学的アプローチによる検討を行い、非社会的問題行動への対応の理論と具体的方法について学ぶ。(講義；松本)	
	第3回	保護者対応の課題と対応【講義・演習】 多角化する保護者対応の課題と現状について整理し、家庭との連携を図るうえでの保護者対応の重要性について理解を深め、実際の対応に関する演習を行いその対応について模索する。(講義・演習；松本)	

第4回	児童生徒の問題行動と発達障がい【講義】 学校生活や家庭生活に困難を持つ児童生徒に対して、発達障がいへの理解という視点からアプローチする方法について学ぶ。臨床心理学的なアセスメントや援助方法について、具体的事例をもとに理解を深める。(講義；山本)
第5回	問題行動への組織的対応に関する事例研究【ケーススタディ】 問題行動への組織的対応の理論と方法を学ぶ。具体的仮想事例を用いて、チーム援助の具体的方法についてジェノグラムの作成と参加型事例研究法を実習する。(進行；隈元)
第6回	問題行動への多面的理解に基づく対応の事例研究【ケーススタディ】 多面的理解に基づく問題行動への対応について、仮想事例をとりあげ、参加者間の相互作用により解決策を探るグループ体験を基盤とした事例研究法について体験的に学ぶ。(松本・隈元・山本)
第7回	問題行動への多面的理解に基づく対応の事例研究【ケーススタディ】 多面的理解に基づく問題行動への対応について、仮想事例をとりあげ、参加者間の相互作用により解決策を探るグループ体験を基盤とした事例研究法について体験的に学ぶ。(松本・隈元・山本)
第8回	これからの生徒指導の方向性と課題【発表・ディスカッション】 前半) 多面的理解に基づく問題行動への対応について、仮想事例をとりあげ、参加者間の相互作用により解決策を探るグループ体験を基盤とした事例研究法について体験的に学ぶ。(松本・隈元・山本) 後半) 児童生徒の問題行動の背景にある心理・社会的要因についての理解に立ち、学校教育現場における生徒指導上の課題への対応について、各校種ごとに協議し、その結果を発表するとともに全体で意見交換し、これからの生徒指導の取り組みの方向性を探る。(全体進行；松本、まとめ；隈元・山本)
成績評価の方法・観点等	【到達目標】 1 児童生徒の内的葛藤や問題行動を的確に理解し、適切に対処することができる。児童生徒の問題行動、保護者対応などについて、その現状を理解し、演習を通じて、その指導のあり方について理解し自分の意見を持つことができる。 2 生徒指導の多様な方法を理解し、チーム援助に基づく実践を行うことができる。 3 事例研究をもとに、自分自身をふりかえるとともに、多角的な生徒指導につなげることができ、生徒指導のありかたについて再考することができる。コーディネート能力を身につけ、学校内外での連携を進めることができる。 【評価の観点】 1 授業における積極的な参加、討議における他者との円滑で促進的な態度 2 事例研究の内容(質的な充実度)とそのふりかえり、及び考察 3 他者の事例へのかかわりにおける気づき(レポート) これらを総合的に判定する。 【成績評価の方法】 授業における協議、討論等への参加度(30%)および発表・事例研究における発言等授業への貢献度(20%)、事例提示レポート(20%)、課題に関する最終レポート(30%)を合算して評価する。

テキスト・教材・参考書等	<p>授業時に資料を配付する。参考文献については適宜指示する。</p> <p>参考図書：文部科学省（2010）「生徒指導提要」（教育図書） 村山正治・中田行重（2012）「新しい事例検討法 PCAGIP法入門」（創元社）</p>
事前事後学修	<p>前半の授業（講義中心）においては、シラバスに示された内容、次回の授業に向けて提示する課題に関する関連図書・論文等に目を通す。また、後半の授業においては、事例研究やディスカッションの方法を、<u>受講者間での協議を課外において行うことができるよう学びを深めることが望ましい</u>。授業後は、配付資料等を活用し、授業内容の振り返りを行う。</p> <p>【事前】 授業の前に自分自身の課題・事例について整理し、その概要をまとめておくと授の理解についての深まりが増すと思われる。事前に授業で用いる内容の資料を示すので、授業に関する理論的背景を事前に学び、授業においてそれらへのコメント・疑問を授業中に提出できるよう準備しておく。（16時間）</p> <p>【事後】 各時間における授業で学んだ内容についてまとめ、それをもとに学びのレポートを作成しておくこと。本資料は最後の授業時のディスカッションの材料となる。最後に全体に関する総合レポートを提出する。（16時間）</p>
そ の 他	<p>事例研究・協議を中心としたアクティブ・ラーニングを実施する。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	学校における道德教育の実践研究 ① (Practical Study on Moral Education in School)		
単 位	1単位	担当教員	谷田 増幸 淀澤 勝治 森本 哲介
必修・選択の別	必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>科学技術の発展や社会・経済の変化，グローバル化の進展する中で，学校・家庭・地域社会における現状を踏まえて，子どもたちの道德性の育成において何が課題であるのかを検討する。次に，学校の教育活動全体を通じて行うものとされている道德教育の特質を適切に理解するとともに，その要として位置付けられている「特別の教科 道德」（道德科）の充実・改善に向けて授業実践等を基に検討する。さらに，道德的な実践の指導を行う重要な機会と場である特別活動において，集団活動や体験的な活動を取り上げその充実・改善に向けて検討を行う。結果として，学校の教育活動全体を通じて行う道德教育やその要としての道德科における諸課題を適切に理解し，課題解決へ向けた具体的な実践のための知識と力量を獲得することが期待される。</p>		
授業の内容・計画	<p>「学校における道德教育の実践研究」は1単位で前期の前半（7月2日）で終了する。旧カリ「学校における心の教育の実践研究」は2単位で，後半のキャリア教育の部分を含み，森本が担当する。その部分については，この度の新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて2回分しか設定されていないが，残りの回数分は課題提示などによって補うこととして森本より具体的な指示がある。</p>		
	第1回 5/14	道德科における指導について①「道德科授業のユニバーサルデザイン」（淀澤）	
	第2回 5/21	道德科における指導について②「板書計画から考える道德科授業」（淀澤）	

<p>第3回 5/28</p>	<p>道徳科における指導について③ 「『主体的・対話的で深い学び』を実現する道徳科授業改善の視点」(淀澤)</p>
<p>第4回 6/4</p>	<p>「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」へー学習指導要領等改訂の趣旨ー(谷田)</p>
<p>第5回 6/11</p>	<p>道徳科における評価への取組からその指導の在り方を考える(谷田)</p>
<p>第6回 6/18</p>	<p>中・高等学校における教材から道徳教育を考える(谷田)</p>
<p>第7回 6/25</p>	<p>特別活動の視点からの道徳教育①PBISプログラムの紹介(森本)</p>
<p>第8回 7/2</p>	<p>特別活動の視点からの道徳教育②PBISプログラムの実践と応用(森本)</p>
<p>成績評価の方法・ 観点等</p>	<p>レポートにより、授業への参加態度と理解度を総合的に評価する(満点:100点)。レポートは、担当教員それぞれに提出するものとする。成績評価の観点として以下の点をあげておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校・家庭・地域社会における現状を踏まえて、子どもたちの道徳性の育成に係る現状や課題について適切に説明できる。 ② 学校の教育活動全体を通じて行うものとされている道徳教育の特質を適切に理解するとともに、その要として位置付けられている道徳科の充実・改善に向けた指導と評価の進め方について実践的な理解を深めることができる。 ③ 道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場である特別活動について、その目標や内容、指導計画や指導方法について実践的な理解を深めることができる。

<p>テキスト・教材・参考書等</p>	<p>・文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月）』廣済堂あかつき ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月）』教育出版 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編（平成 30 年 7 月）』東洋館出版社</p> <p>（上記のテキストの中で、文部科学省で編集された『解説』は受講者の各学校種に応じる。）</p>
<p>事前事後学修</p>	<p>毎回の授業のレジュメ（資料等を含む）には、学習課題や手引き等が記載されている。それらを各回の授業日の 1 週間前までに Live Campus 上に掲載・配信するので（履修登録期間の対応は現在検討中）、そこからダウンロードして事前に読んでおく（事前学修 30 時間）。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>アクティブラーニング実施科目。授業は次のように実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形態は、Live Campus によるレポート課題の提出と Zoom による説明を組み合わせたものを基本とする。状況や教員によっては、Live Campus によるレポート課題の提出のみとする場合がある。 （各回で授業形態が異なる場合があるのでレポート課題の提出の仕方などに注意しておくこと。） 2. Zoom での授業は、原則として水曜日の 1 時限に実施する。Zoom での授業は、導入で目標やレポート課題を説明した後、Zoom から一時退出してレポート課題（作文等）に取り組み、再び Zoom に戻って補足説明やまとめをする、という流れを基本とする。レポートは授業後すぐに Live Campus から提出する。レポート提出をもって授業への出席とみなし、レポートの記述内容から参加態度・理解度を評価する。授業内容に関する質問は、レポートの余白に書いてもよいことにする。 3. 質疑応答は、メールを基本とする。

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	学校における道德教育の実践研究 ② (Practical Study on Moral Education in School)		
単 位	1 単位	担当教員	谷田 増幸 淀澤 勝治 森本 哲介
必修・選択の別	必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>科学技術の発展や社会・経済の変化，グローバル化の進展する中で，学校・家庭・地域社会における現状を踏まえて，子どもたちの道德性の育成において何が課題であるのかを検討する。次に，学校の教育活動全体を通じて行うものとされている道德教育の特質を適切に理解するとともに，その要として位置付けられている「特別の教科 道德」（道德科）の充実・改善に向けて授業実践等を基に検討する。さらに，道德的な実践の指導を行う重要な機会と場である特別活動において，集団活動や体験的な活動を取り上げその充実・改善に向けて検討を行う。結果として，学校の教育活動全体を通じて行う道德教育やその要としての道德科における諸課題を適切に理解し，課題解決へ向けた具体的な実践のための知識と力量を獲得することが期待される。</p>		
授業の内容・計画	<p>「学校における道德教育の実践研究」は1単位で前期の前半（7月2日）で終了する。旧カリ「学校における心の教育の実践研究」は2単位で，後半のキャリア教育の部分を含み，森本が担当する。その部分については，この度の新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて2回分しか設定されていないが，残りの回数分は課題提示などによって補うこととして森本より具体的な指示がある。</p>		
	第1回 5/14	道德科における指導について①「道德科授業のユニバーサルデザイン」（淀澤）	
	第2回 5/21	道德科における指導について②「板書計画から考える道德科授業」（淀澤）	

<p>第3回 5/28</p>	<p>道徳科における指導について③ 「『主体的・対話的で深い学び』を実現する道徳科授業改善の視点」(淀澤)</p>
<p>第4回 6/4</p>	<p>「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」へー学習指導要領等改訂の趣旨ー(谷田)</p>
<p>第5回 6/11</p>	<p>道徳科における評価への取組からその指導の在り方を考える(谷田)</p>
<p>第6回 6/18</p>	<p>中・高等学校における教材から道徳教育を考える(谷田)</p>
<p>第7回 6/25</p>	<p>特別活動の視点からの道徳教育①PBISプログラムの紹介(森本)</p>
<p>第8回 7/2</p>	<p>特別活動の視点からの道徳教育②PBISプログラムの実践と応用(森本)</p>
<p>成績評価の方法・ 観点等</p>	<p>レポートにより、授業への参加態度と理解度を総合的に評価する(満点:100点)。レポートは、担当教員それぞれに提出するものとする。成績評価の観点として以下の点をあげておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学校・家庭・地域社会における現状を踏まえて、子どもたちの道徳性の育成に係る現状や課題について適切に説明できる。 ② 学校の教育活動全体を通じて行うものとされている道徳教育の特質を適切に理解するとともに、その要として位置付けられている道徳科の充実・改善に向けた指導と評価の進め方について実践的な理解を深めることができる。 ③ 道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場である特別活動について、その目標や内容、指導計画や指導方法について実践的な理解を深めることができる。

<p>テキスト・教材・参考書等</p>	<p>・文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月）』廣済堂あかつき ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（平成 29 年 7 月）』教育出版 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編（平成 30 年 7 月）』東洋館出版社</p> <p>（上記のテキストの中で、文部科学省で編集された『解説』は受講者の各学校種に応じる。）</p>
<p>事前事後学修</p>	<p>毎回の授業のレジュメ（資料等を含む）には、学習課題や手引き等が記載されている。それらを各回の授業日の 1 週間前までに Live Campus 上に掲載・配信するので（履修登録期間の対応は現在検討中）、そこからダウンロードして事前に読んでおく（事前学修 30 時間）。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>アクティブラーニング実施科目。授業は次のように実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形態は、Live Campus によるレポート課題の提出と Zoom による説明を組み合わせたものを基本とする。状況や教員によっては、Live Campus によるレポート課題の提出のみとする場合がある。 （各回で授業形態が異なる場合があるのでレポート課題の提出の仕方などに注意しておくこと。） 2. Zoom での授業は、原則として水曜日の 1 時限に実施する。Zoom での授業は、導入で目標やレポート課題を説明した後、Zoom から一時退出してレポート課題（作文等）に取り組み、再び Zoom に戻って補足説明やまとめをする、という流れを基本とする。レポートは授業後すぐに Live Campus から提出する。レポート提出をもって授業への出席とみなし、レポートの記述内容から参加態度・理解度を評価する。授業内容に関する質問は、レポートの余白に書いてもよいことにする。 3. 質疑応答は、メールを基本とする。

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	教員のための学校組織マネジメントの実践演習 ① (Organizational Management for Schools ①)		
単 位	1 単位	担当教員	浅野 良一 小西 哲也 川上 泰彦 黒岩 寛
必修・選択の別	必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	本科目では、学校組織の一員である教職員に必要な学校組織マネジメントと学校評価の理論と実践の基本について講義するとともに、演習において学生の現任校を題材に組織マネジメントと学校評価の基本的なトレーニングを行い、学校における組織人としてのマインドとスキルを習得させる。また、学校経営に関わる教育行政の基本事項の理解をさせる。		
授業の内容・計画	第 1 回 5/18	1. 学校組織マネジメントの考え方 (1)オリエンテーション (2)マネジメントと何か ZOOM(浅野、黒岩)	
	第 2 回 ～ 第 3 回 5/25	2. 学校組織マネジメントの考え方 (1)学校組織と特徴 (2)学校をマネジメントする手の打ち所 3. 学校のビジョンづくり (1)学校ビジョンを構成する7つの要素 (2)学校のミッション探索 第2回ZOOM、2回目の最後にレポート課題提示(浅野、黒岩)	
	第 4 回 ～ 第 5 回 6/1	4. 学校の環境分析 (1)学校のSWOT分析 5. 学校の特色づくり (2)学校の内外の強みを生かした特色づくり 第4回ZOOM、4回目の最後にレポート課題提示(浅野、黒岩)	
	第 6 回 6/8	6. 学校組織づくりとリーダーシップ (1)学校目標を実現するリーダーシップ (2)学校の組織活性化プロセス ZOOM(浅野、黒岩)	
	第 7 回 6/15	7. 学校の地域連携 ZOOM(小西、黒岩)	
	第 8 回 6/29	8. 学校経営と教育行政 ZOOM(川上、黒岩)	

成績評価の方法・観点等	<p>(到達目標)</p> <p>①学校経営・教育行政の理念・制度と、その改革の意義と方向について理解し、説明できる。</p> <p>②学校組織マネジメントの理論と基本スキルを獲得することによって、学校経営ビジョンの骨格を構築することができる。</p> <p>③学校経営ビジョンをもとにして、学校評価システムの骨格を構築することができる。</p> <p>(評価方法)</p> <p>レポート3点70%と授業での演習成果30%。</p>
テキスト・教材・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>学校組織マネジメント実践 (2020 : 浅野良一)</p> <p>*冊子になったオリジナルテキストあり。希望する住所に郵送予定。</p> <p>【参考書・参考資料等】</p> <p>ステップアップ学校マネジメント</p> <p>学校管理職養成スーパープログラム (2013 : 学事出版)</p>
事前事後学修	
その他	

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース	
授業科目名 (英 文 名)	教員のための学校組織マネジメントの実践演習 ② (Organizational Management for Schools ②)			
単 位	1 単位	担当教員	浅野 良一 小西 哲也 棚野 勝文	
必修・選択の別	必修			
授 業 の 方 法	講義・演習			
標準履修年次	1 年次			
開 講 学 期	前期			
授業のテーマ 及び到達目標	本科目では、学校組織の一員である教職員に必要な学校組織マネジメントと学校評価の理論と実践の基本について講義するとともに、演習において学生の現任校を題材に組織マネジメントと学校評価の基本的なトレーニングを行い、学校における組織人としてのマインドとスキルを習得させる。また、学校経営に関わる教育行政の基本事項の理解をさせる。			
授業の内容・計画	第 1 回 5/18	1. 学校組織マネジメントの基本① (1)オリエンテーション (2)大学院生活の目標づくり ZOOM & レポート課題 (浅野)		
	第 2 回 5/25	2. 学校組織マネジメントの進め方① ZOOM (棚野)		
	第 3 回 第 4 回 6/1	2. 学校組織マネジメントの進め方② 2. 学校組織マネジメントの進め方③ 第3回ZOOM、3回目の最後に4回目のレポート課題を提示 (棚野)		
	第 5 回 第 6 回 6/8	2. 学校組織マネジメントの進め方④ 2. 学校組織マネジメントの進め方⑤ 第5回ZOOM、5回目の最後に6回目のレポート課題を提示 (棚野)		
	第 7 回 6/22	3. 学校の地域連携 ZOOM (小西)		
	第 8 回 6/29	4. 教育行政と学校経営の実践 ZOOM (小西)		
	成績評価の方法・観点等	(到達目標) ①学校経営・教育行政の理念・制度と、その改革の意義と方向について理解し、説明できる。 ②学校組織マネジメントの理論と基本スキルを獲得することによって、学校経営ビジョンの骨格を構築することができる。 ③学校経営ビジョンをもとにして、学校評価システムの骨格を構築することができる。		
		(評価方法) レポート3点70%と授業での演習成果30%。		

テキスト・教材・ 参考書等	【テキスト】 学校組織マネジメント実践（2020：浅野良一） 【参考書・参考資料等】 ステップアップ学校マネジメント 学校管理職養成スーパープログラム（2013：学事出版）
事前事後学修	
そ の 他	

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	児童生徒を活かす学級経営の実践演習 ① (Practice of Classroom Management for Children ①)		
単 位	1単位	担当教員	吉川 芳則 竹西 亜古 山中 一英
必修・選択の別	必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	この授業では、学級経営に関する実践的演習と理論の学修を通じて、望ましい学級経営のあり方と手法を考える。実践的演習では現場での自らの経験を省察・再確認しながら「学級経営案の作成と討論」を中心に行う。この作業を通じて、校種や現任校での立場を越えて、学級経営上の今日的な問題意識を共有し、解決の糸口を探求することができる。さらに授業では、学級経営の基盤となる「集団づくり」の理論や考え方を学び、現場での実践を振り返るとともに新たな視点から分析する。加えて、学級やクラブ活動における教師と児童生徒の関係性を「リーダーシップ理論」の観点から捉え直し、子どもたちのリーダーとしての教師のあり方を考える。この授業では、学級経営・クラス運営の実際に理論と実践を両輪とした複数の側面からアプローチすることで、受講生ひとりひとりの実践力を高めると同時に、有効な実践手法やその基盤を可視化・言語化して他の教師と共有できることを目標とする。		
授業の内容・計画	第1回	学級経営案(1) 学級経営案とは何か〔講義及びワークショップ〕 学級経営案を作成した経験について意見交流する。また、小学校、中学校、高等学校におけるタイプの異なる複数の学級経営案を形式面、内容面から検討し、その特徴、多様性について協議、検討する。 (担当：吉川)	
	第2回	学級経営案(2) 学級経営案作成上の留意点〔講義及びワークショップ〕 第1回に引き続き異なったタイプの学級経営案のあり方を検討するとともに、学級経営案を作成することの意義や課題、作成上の留意点について協議する。 (担当：吉川)	
	第3回	学級と「集団」(1)：集団とは何か〔講義及びワークショップ〕 「集団とは何か」、この問いをめぐる主に社会心理学の研究の知見や理論を教示する。そして、それに依拠したとき、学級経営はどのようなものとして捉えることができるのか、授業者の考えを提示しながら受講者と議論する。 (担当：山中)	
	第4回	学級と「集団」(2)：学級が集団であることは児童生徒に何をもたらすのか 〔講義及びワークショップ〕 「学級が集団であることは児童生徒に何をもたらすのか」、この問いをめぐる主に教育心理学や学習科学の研究の知見や理論を教示するとともに、「他者とかわる」ことと「学ぶ」ことの接続の問題について受講者と議論する。 (担当：山中)	

	<p>第5回 フォロワーを育てるリーダーシップ(1)〔講義及びワークショップ〕 学級経営・クラブ指導、さらには学校経営・組織運営を念頭に、リーダーシップの理論と知見を解説する。リーダーが集団やひとりひとりのフォロワー(児童生徒、同僚、教職員等)におよぼす影響を、社会心理学的知見から明らかにし、フォロワーを伸ばし・育てるリーダー行動について考える。1回目は「リーダーシップとはなにか」「リーダーシップが生じるための要件」などの基礎的な解説をし、受講生がリーダーとして自らの実践を振り返る作業を行う。 (担当：竹西)</p>
	<p>第6回 フォロワーを育てるリーダーシップ(2)：パフォーマンスを引き出すリーダーシップ〔講義及びワークショップ〕 2回目は、集団のパフォーマンスという観点から、リーダーのあり方を捉えたリーダーシップモデル「グループ・ダイナミクス(group dynamics)」を解説し、学校教育場面での応用を考える。さらに、フォロワーの動機づけ(モチベーション)を促進するレビン(K. Lewin)のリーダーシップ研究を紹介し、受講生のリフレクションを促す。 (担当：竹西)</p>
	<p>第7回 フォロワーを育てるリーダーシップ(3)：信頼を育てるリーダーシップ〔講義及びワークショップ〕 3回目では、リーダーとフォロワーの関係性を「公正感(fairness)」という視点から取り上げ、リーダー行動とその影響を考える。まずフェアな関係こそが信頼形成に結びつくことを社会的交換理論からあきらかにする。その上で、リーダーの「手続き的公正(procedural fairness)」が、フォロワーの集団アイデンティティや自尊感情を高める効果、ならびに仲間同士の結びつきや相互サポートを強める効果をもつことを心理モデルの解析から示す。 (担当：竹西)</p>
	<p>第8回 まとめ：学びの言語化と共有にむけて〔ワークショップ〕 実践と理論の両面から学級経営・クラス運営を考えるというこの授業のアプローチを踏まえて、受講生ひとりひとりが得られた学びを確認するとともに、学びを言語化し伝達する訓練を行う。そのために「授業での学びを踏まえて、若手の教師に学級経営上のアドバイスをする」という設定で小論文を作成し、授業での学びを自らの実践に結びつけることによってまとめとする。 (担当：吉川)</p>
<p>成績評価の方法・観点等</p>	<p>【成績評価の方法】 1) ワークショップ、発表、討論等における活動(30%) 2) 最終回に課す小論文(70%) 以上を総合して成績評価を行う。</p> <p>【到達目標】 受講者自身もっている学級経営上の問題意識に基づき、以下の点に関して、自身の学級経営についての認識を再構築することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の学級経営に機能する学級経営案 ・学級と「集団」との関係性 ・学級のなかの児童生徒理解 ・学級経営におけるリーダーとフォロワーの関係性
<p>テキスト・教材・参考書等</p>	<p>【教材】 授業の中で、適宜プリント等を配付する。テキストは使用しない。</p> <p>【参考書】 吉田俊和・橋本剛・小川一美編著『対人関係の社会心理学』ナカニシヤ出版(第3回、第4回の参考書) 久保真人編著『感情マネジメントと癒しの心理学』朝倉書店(第5回から第7回の参考書)</p>

事前事後学修	毎回の授業につき、授業内容に合わせた以下の観点での考察等を事前・事後で180分～200分程度で記述しておくようにする。 事前：自身のこれまでの学級経営の実態、学級経営に対して有しているイメージ、課題等を確認しておく。 事後：講義で学んだ内容を、実習科目等における教室の実態と重ね合わせて確認する。
そ の 他	

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	児童生徒を活かす学級経営の実践演習 ② (Practice of Classroom Management for Children ②)		
単 位	1 単位	担当教員	吉川 芳則 竹西 亜古 山中 一英
必修・選択の別	必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	この授業では、学級経営に関する実践的演習と理論の学修を通じて、望ましい学級経営のあり方と手法を考える。実践的演習では、将来教職に就いた際、担任としてつくっていききたい学級を考えながら「学級経営案の作成」を行い、その内容について他の受講生や授業者と討論する。この作業を通じて、学級経営上の今日的な問題意識を共有し、解決の糸口を探求するとともに、望ましい学級像を深めていく。さらに授業では、学級経営・クラス運営の基盤となる「集団づくり」の理論や考え方を学び、学級経営の実際について学問的視点から分析する。加えて、学級やクラブ活動における教師と児童生徒の関係性を「リーダーシップ理論」の観点から捉え直し、子どもたちのリーダーとしての教師のあり方を考えていく。この授業では、学級経営・クラス運営の実際に理論と実践を両輪とした複数の側面からアプローチすることで、受講生ひとりひとりの実践力を高めると同時に、有効な実践手法やその基盤を可視化・言語化して他の教師と共有できることを目標とする。		
授業の内容・計画	第 1 回	学級経営案(1) 学級経営案とは何か〔講義及びワークショップ〕 学級経営案とはどういうものか、小学校、中学校、高等学校におけるタイプの異なる複数の学級経営案の実物を形式面、内容面から検討し、その特徴、多様性について協議する。 (担当：吉川)	
	第 2 回	学級経営案(2) 学級経営案作成上の留意点〔講義及びワークショップ〕 第 1 回に引き続き異なったタイプの学級経営案のあり方を検討するとともに、学級経営案を作成することの意義や課題、作成上の留意点について協議する。 (担当：吉川)	
	第 3 回	学級と「集団」(1)：集団とは何か〔講義及びワークショップ〕 「集団とは何か」、この問いをめぐる主に社会心理学の研究の知見や理論を教示する。そして、それに依拠したとき、学級経営はどのようなものとして捉えることができるのか、授業者の考えを提示しながら受講者と議論する。 (担当：山中)	
	第 4 回	学級と「集団」(2)：学級が集団であることは児童生徒に何をもたらすのか①〔講義及びワークショップ〕 「学級が集団であることは児童生徒に何をもたらすのか」、この問いをめぐる主に社会心理学の研究の知見や理論を教示するとともに、それについて受講者と議論する。 (担当：山中)	

第5回	<p>学級と「集団」(3) : 学級が集団であることは児童生徒に何をもたらすのか②〔講義及びワークショップ〕</p> <p>「学級が集団であることは児童生徒に何をもたらすのか」、この問いをめぐる主に教育心理学や学習科学の研究の知見や理論を教示するとともに、「他者とかかわる」ことと「学ぶ」ことの接続の問題について受講者と議論する。</p> <p>(担当: 山中)</p>
第6回	<p>フォロワーを育てるリーダーシップ(1)〔講義及びワークショップ〕</p> <p>学級経営・クラブ指導、さらには学校経営・組織運営を念頭に、リーダーシップの理論と知見を解説する。リーダーが集団やひとりひとりのフォロワー(児童生徒、同僚、教職員等)におよぼす影響を、社会心理学的知見から明らかにし、フォロワーを伸ばし・育てるリーダー行動について考える。1回目は「リーダーシップとはなにか」「リーダーシップが生じるための要件」などの基礎的な解説をし、受講生がリーダーとして自らの実践を振り返る作業を行う。</p> <p>(担当: 竹西)</p>
第7回	<p>フォロワーを育てるリーダーシップ(2) : パフォーマンスを引き出すリーダーシップ〔講義及びワークショップ〕</p> <p>2回目は、集団のパフォーマンスという観点から、リーダーのあり方を捉えたリーダーシップモデル「グループ・ダイナミクス(group dynamics)」を解説し、学校教育場面での応用を考える。さらに、フォロワーの動機づけ(モチベーション)を促進するレビン(K. Lewin)のリーダーシップ研究を紹介し、受講生のリフレクションを促す。</p> <p>(担当: 竹西)</p>
第8回	<p>フォロワーを育てるリーダーシップ(3) : 信頼を育てるリーダーシップ〔講義及びワークショップ〕</p> <p>3回目では、リーダーとフォロワーの関係性を「公正感(fairness)」という視点から取り上げ、リーダー行動とその影響を考える。まずフェアな関係こそが信頼形成に結びつくことを社会的交換理論からあきらかにする。その上で、リーダーの「手続き的公正(procedural fairness)」が、フォロワーの集団アイデンティティや自尊感情を高める効果、ならびに仲間同士の結びつきや相互サポートを強める効果をもつことを心理モデルの解析から示す。</p> <p>(担当: 竹西)</p>
成績評価の方法・観点等	<p>【成績評価の方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ワークショップ、発表、討論等における参加、貢献度(30%) 2) 総括レポート(70%) <p>以上を総合して成績評価を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>受講者自身もっている学級経営上の問題意識に基づき、以下の点に関して、自身の学級経営についての認識を再構築することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の学級経営に機能する学級経営案 ・学級と「集団」との関係性 ・学級のなかの児童生徒理解 ・学級経営におけるリーダーとフォロワーの関係性
テキスト・教材・参考書等	<p>【教材】</p> <p>授業の中で、適宜プリント等を配付する。テキストは使用しない。</p> <p>【参考書】</p> <p>吉田俊和・橋本剛・小川一美編著『対人関係の社会心理学』ナカニシヤ出版(第3回から第5回の参考書)</p> <p>久保真人編著『感情マネジメントと癒しの心理学』朝倉書店(第6回から第8回の参考書)</p>

事前事後学修	毎回の授業につき、授業内容に合わせた以下の観点での考察等を事前・事後で180分～200分程度で記述しておくようにする。 事前：教育実習、実地研究等で自身がこれまで経験した学級経営の実態、学級経営に対して有しているイメージ、課題等を確認しておく。 事後：講義で学んだ内容を実習科目等における教室の実態と重ね合わせ、学級経営に対する認識の拡充に努める。
そ の 他	

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	教員の社会的役割と自己啓発 ① (Social Role of Teachers and Self-Development ①)		
単 位	1 単位	担当教員	當山 清実 浅野 良一 小西 哲也 安藤 福光
必修・選択の別	必修・選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>本授業は、共通基礎科目として「学校教育と教員の在り方に関する領域」に設定されている。内容的には、①教員のキャリア発達、②教員の社会的役割、③学校教育の現代的課題、④教員の職能成長、以上が大きな柱となる。</p> <p>授業を通して、受講生のこれまでの教職生活を振り返り、次のステージにおける教育実践への認識を深めるとともに、期待される実践的力量的の獲得を目標とする。併せて、教員としての自己啓発や他の教員に対する職能成長の支援の在り方を知り、考え、実践できるようになることをめざす。</p>		
授業の内容・計画	第 1 回	教員のキャリア発達について ・教員が担う役割の拡大とキャリアの振り返り	
	第 2 回	教員のキャリア発達について ・キャリア発達のための自己理解	
	第 3 回	教員の社会的役割について ・学校教育の歴史と教員に求められる資質能力	
	第 4 回	教員の社会的役割について ・教員養成・採用制度とその改革動向	
	第 5 回	学校教育の現代的課題について ・教員の人事行政と職業倫理の向上	
	第 6 回	学校教育の現代的課題について ・教員の新たな役割と育成指標	
	第 7 回	教員の職能成長について ・校内研修と校外研修を通じた職能成長	
	第 8 回	教員の職能成長について ・自主研修を通じた職能成長と学び続ける教員をめざした総括	

成績評価の方法・観点等	<p><評価方法> レポート（30%）、発表（20%）、授業への貢献度（50%）を加味して総合評価する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育に関する専門用語の意味・定義を正確に説明することができる。 2. 学校教育に関する現状や課題を分析し、自分の意見を的確に述べることができる。 3. 現任校等の実態を踏まえ、研修環境の改善に向けて具体的に提案することができる。
テキスト・教材・参考書等	<p>【テキスト】 教師のライフコース研究（山崎準一著、創風社）</p> <p>【参考書・参考資料等】 授業中に適宜資料を配付する。</p>
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業内容に関連する情報を収集しておくこと。
その他	

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	教員の社会的役割と自己啓発 ② (Social Role of Teachers and Self-Development ②)		
単 位	1 単位	担当教員	安藤 福光 小西 哲也 當山 清実 黒岩 寛
必修・選択の別	必修・選択必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>本授業は、共通科目の「学校教育と教員の在り方に関する領域」の科目として設定している。内容的には、①現代社会における学校教育の役割と現代的課題の解決策、②今後の教員に求められる資質能力、③教員の職能成長の機会と方法、等が大きな柱となる。</p> <p>これらを通して、これから教員をめざそうとする受講生の認識を深め教員としての力量を培うことを目標とする。併せて、受講生自身が良き教員となるための自己啓発の在り方を知り、考え、実践するために必要な資質を形成する。</p>		
授業の内容・計画	第1回	オリエンテーションおよび教員を指す言葉の整理 (安藤・黒岩) 教員の社会的な役割を意識するために言葉の意味を整理する。	
	第2回	学校教育と教員 (1) (安藤) 学校教育と教員の組織化の過程等について、近代学校制度の成立から第二次世界大戦終了までの歴史を概観する。	
	第3回	学校教育と教員 (2) (安藤) 学校教育と教員の組織化の過程等について、戦後の新しい学校制度の成立から90年代後半までの歴史を概観する。	
	第4回	学校教育と教員 (3) (安藤) 学校教育と教員の組織化の過程等について、90年代後半以降から現在までの歴史を概観する。	
	第5回	求められる教員像の変遷 (安藤・黒岩) 時代によって求められる教員像の変遷を、主としてメディアで語られる教員を扱い、これからの時代に求められる教員像を考察する。	
	第6回	教員の専門性 (當山) 優秀教員のもつ特性をもとに、教員の専門性について考察する。	
	第7回	答申から見た教員の資質と能力 (1) (小西) 中央教育審議会答申等を参考に、教員に求められてきた資質能力の変遷の歴史を概観する。	
	第8回	答申から見た教員の資質と能力 (2) (小西) 中央教育審議会答申等を参考に、教員に求められてきた資質能力の変遷の歴史を概観する。	

<p>成績評価の方法・ 観点等</p>	<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の社会的な役割について、自分の考えを説明することができる。 ・新任期の教員に求められる資質能力について、それが必要となる理由を説明できる。 ・上との関連で、自分に不足している資質能力を見定めることができ、あわせてそれを養う手だてを考えることができる。 <p>【評価項目・観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記到達目標に即した期末レポートの作成（50%）をもとに、講義への参加度・貢献度（50%）を総合的に勘案して評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ① レポート：講義内容の理解度、また自己の現状分析とその手だての妥当性の観点から評価する。 ② 授業への参加度・貢献度：毎回の講義・演習への積極的な参加・貢献を求め、主として質疑応答内容の質的・量的な観点から評価する。
<p>テキスト・教材・ 参考書等</p>	<p>【テキスト】 講義担当者が適宜プリント資料を配付する。</p> <p>【参考書】 参考書は、随時紹介する。</p>
<p>事前事後学修</p>	<p>講義内容と講義時の演習から得た知見とを照合して、自分の理想とする教員像について考察すること。</p>
<p>そ の 他</p>	

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	教員のための人権教育の理論と方法 ① (Theory and Practice in Human Rights Education for Teachers ①)		
単 位	1 単位	担当教員	山内 敏男 小南 浩一 米田 豊 和田 幸司 岩本 剛
必修・選択の別	必修・選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	後期		
授業の目標及び期待される学習効果	人権教育は，これまでさまざまな側面で考えられてきたことを知り，人権にかかわる基礎的知識と実践のための理論について分析・検討できる。学校カリキュラムにおける人権教育の位置づけと実態や特色，学ぶべき点と固有の課題について説明，実践する力量を形成する。		
授業の内容・計画 〔共同方式〕 (カッコ内は担当，その左端に主担当を示す)	第 1 回	オリエンテーション オンライン (担当：山内，和田，岩本) 学校，家庭，地域社会，国際社会における人権をめぐる諸問題について整理し，法的な課題，教育実践上の課題を抽出する。	
	第 2 回	近代立憲主義と日本国憲法にみる人権 オンライン (担当：小南) 「賀川豊彦と子どもの権利」 生協の創始者賀川豊彦の子どもの権利論を紹介する。	
	第 3 回	夜間中学校にみる人権 (担当：米田) 夜間中学校における特徴的な事例を紹介し，教師自身が人権教育について考える手がかりを探索する。	
	第 4 回	日本における人権教育とグローバルスタンダード オンライン (担当：和田，山内，岩本) 人権教育と同和教育の基礎的理解を図り，グローバルな人権教育から位置付ける。	
	第 5 回	人権教育で育成したい資質・能力の検討 オンライン (担当：岩本，山内，和田) 人権教育に関する実践例を検討することで，人権教育の現状と課題について考察する。	
	第 6 回	近世身分制研究から (1) オンライン (担当：和田，岩本，山内) 近世身分制研究の転換を教科書記述から検討する。	
	第 7 回	近世身分制研究から (2) オンライン (担当：和田，岩本，山内) 近世身分を規定する要因を社会的側面から解説する。	
	第 8 回	人権教育の課題整理と本講義のまとめ オンライン (担当：山内，岩本，和田) 技能的側面，特にダイバーシティの啓発・促進をとおして見た人権教育の在り方や学校カリキュラムにおける人権教育の位置づけを省察し，説明する。	

成績評価の方法・評価項目・観点等	<p>(到達目標)</p> <p>人権教育の諸側面として、「人権としての教育」, 「人権についての教育」などが考えられてきたことを知り, 人権にかかわる基礎的知識と実践のための理論について分析・検討できる。そして, 学校カリキュラムにおける人権教育の位置づけと実態や特色, 学ぶべき点と固有の課題について具体的に説明し, 実践上の課題が指摘できる。</p> <p>(成績評価)</p> <p>課題レポート (各担当の教員より指示されたものA4横書き 様式自由: 70%), 授業への参加状況・授業への貢献度 (30%)</p>
テキスト・教材・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] (www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm)</p> <p>【参考書・参考資料等】</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>
事前事後学修	<p>人権教育に関する資料の収集と改善プランの作成</p>
その他	<p>必要に応じて, 参考資料を配布する。</p> <p>注) 非常勤講師のスケジュールにより, 講義順の入れ替えとなる場合がある。</p> <p>第3回については, Live Campusを用いて課題を配信し, レポート提出を求める。</p> <p>それ以外の回についてはZoomを用いて講義をリアルタイムで配信するとともに, 課題を配信し, レポート提出を求める (アクセス先, 指示はLive Campusにて行う)。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	教員のための人権教育の理論と方法 ② (Theory and Practice in Human Rights Education for Teachers ②)		
単 位	1 単位	担当教員	山内 敏男 小南 浩一 米田 豊 和田 幸司 岩本 剛
必修・選択の別	必修・選択必修		
授 業 の 方 法	講義・演習		
標準履修年次	1 年次		
開 講 学 期	後期		
授業の目標及び期待される学習効果	人権教育は，これまでさまざまな側面で考えられてきたことを知り，人権にかかわる基礎的知識と実践のための理論について分析・検討できる。学校カリキュラムにおける人権教育の位置づけと実態や特色，学ぶべき点と固有の課題について説明，実践する力量を形成する。		
授業の内容・計画 〔共同方式〕 (カッコ内は担当，その左端に主担当を示す)	第 1 回	オリエンテーション オンライン (担当：山内，和田，岩本) 学校，家庭，地域社会，国際社会における人権をめぐる諸問題について整理し，法的な課題，教育実践上の課題を抽出する。	
	第 2 回	近代立憲主義と日本国憲法にみる人権 オンライン (担当：小南) 「賀川豊彦と子どもの権利」 生協の創始者賀川豊彦の子どもの権利論を紹介する。	
	第 3 回	夜間中学校にみる人権 (担当：米田) 夜間中学校における特徴的な事例を紹介し，教師自身が人権教育について考える手がかりを探索する。	
	第 4 回	日本における人権教育とグローバルスタンダード オンライン (担当：和田，山内，岩本) 人権教育と同和教育の基礎的理解を図り，グローバルな人権教育から位置付ける。	
	第 5 回	人権教育で育成したい資質・能力の検討 オンライン (担当：岩本，山内，和田) 人権教育に関する実践例を検討することで，人権教育の現状と課題について考察する。	
	第 6 回	近世身分制研究から (1) オンライン (担当：和田，岩本，山内) 近世身分制研究の転換を教科書記述から検討する。	
	第 7 回	近世身分制研究から (2) オンライン (担当：和田，岩本，山内) 近世身分を規定する要因を社会的側面から解説する。	
	第 8 回	人権教育の課題整理と本講義のまとめ オンライン (担当：山内，岩本，和田) 技能的側面，特にダイバーシティの啓発・促進をとおして見た人権教育の在り方や学校カリキュラムにおける人権教育の位置づけを省察し，説明する。	

成績評価の方法・評価項目・観点等	<p>(到達目標)</p> <p>人権教育の諸側面として、「人権としての教育」, 「人権についての教育」などが考えられてきたことを知り, 人権にかかわる基礎的知識と実践のための理論について分析・検討できる。そして, 学校カリキュラムにおける人権教育の位置づけと実態や特色, 学ぶべき点と固有の課題について具体的に説明し, 実践上の課題が指摘できる。</p> <p>(成績評価)</p> <p>課題レポート (各担当の教員より指示されたものA4横書き 様式自由: 70%), 授業への参加状況・授業への貢献度 (30%)</p>
テキスト・教材・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ] (www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm)</p> <p>【参考書・参考資料等】</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>
事前事後学修	<p>人権教育に関する資料の収集と改善プランの作成</p>
その他	<p>必要に応じて, 参考資料を配布する。</p> <p>注) 非常勤講師のスケジュールにより, 講義順の入れ替えとなる場合がある。</p> <p>第3回については, Live Campusを用いて課題を配信し, レポート提出を求める。</p> <p>それ以外の回についてはZoomを用いて講義をリアルタイムで配信するとともに, 課題を配信し, レポート提出を求める (アクセス先, 指示はLive Campusにて行う)。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	学校における特別支援教育への対応と方法 ① (Special Needs Education in School: Needs, Methods, and Support Systems ①)		
単 位	2単位	担当教員	岡村 章司 井澤 信三 未定
必修・選択の別	必修・選択必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>小・中学校等で学ぶLD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等を含む様々な障害のある児童生徒に対する特別支援教育についてその全般的な概要を述べる。特に、障害理解やアセスメントの進め方、特別なニーズに応じた指導内容や方法、校内支援体制の構築、専門機関との連携、保護者との連携、学校経営の進め方、教育政策・教育行政の最新の動向などについて具体的に述べる。テーマによっては、演習とする。</p> <p>なお、本授業では、現職経験のある者が受講することから、全授業を通して、実際の学校場面を例に取り、学校現場における必須の考え・知識・技能の獲得を目指す。</p>		
授業の内容・計画	第1回	特別支援教育の理念(1)～基本的な知識～(講義) (障害とは何か、発達障害の概要について理解する。これまでの特殊教育との違いを比較しつつ、特別支援教育の理念や基本的な考えを理解する。)(井澤)	
	第2回	特別支援教育の理念(2)～最新の情報～(講義) (インクルーシブ教育システムの実現に向けて、基盤となる考え方、具体的な取組、今後に向けた方向性等について理解する。)(井澤)	
	第3回	障害の理解とアセスメント(1) (講義・演習) (LD、ADHD、ASDの障害の定義、行動特性、分類などについて理解し、習得する。)(井澤)	
	第4回	障害の理解とアセスメント(2) (講義・演習) (障害の理解の基本的な考え方、アセスメントの意義や方法について理解し、習得する。)(井澤)	
	第5回	特別なニーズに応じた指導内容・方法(1) 基本的な考え方 (講義) (個々の特別なニーズに応じた基本的な指導・支援方法、その際の配慮事項を理解する。)(井澤)	
	第6回	特別なニーズに応じた指導内容・方法(2) 指導の実際 (演習) (指導事例をもとに、その有効性や課題を協議し、より適切な指導内容・方法を明らかにしていく。)(井澤)	

第7回	特別なニーズに応じた指導内容・方法(3) PDCAサイクルに基づく指導(講義・演習) (学習支援、授業・学級づくりのポイントについて知り、それらの具体的取組について理解する。)(井澤)
第8回	特別なニーズに応じた指導内容・方法(3) PDCAサイクルに基づく指導(講義・演習) (社会性支援、行動上の問題の理解と対応のポイントについて知り、それらの具体的取組について理解する。)(井澤)
第9回	校内支援体制の構築(1) 基本的な考え (講義) (校内支援体制を構築する意図やその際の基本的な考えを理解し、構築の在り方についての具体的な方法や配慮事項について知る。)(岡村)
第10回	校内支援体制の構築(2) 特別支援教育コーディネーターの役割と校内委員会(講義) (コーディネーターの役割や機能を理解し、実際の活動内容を知る。また、校内委員会の目的を理解し、設置の在り方を具体的な事例をとって理解する。さらに、機能的な運営をする際の条件を明らかにする。)(岡村)
第11回	専門機関との連携の在り方(1) 巡回相談や専門家チームとの連携の進め方(講義・演習) (巡回相談や専門家チームとの連携を進める際の具体的な在り方を理解し、事例を通して、適切な連携の在り方を明らかにしていく。)(岡村)
第12回	専門機関との連携の在り方(2) 地域における支援機関のリソース (講義・演習) (地域における支援機関のリソースを把握し、それぞれの機能について理解する。また、個別の教育支援計画などのツールについても理解する。)(岡村)
第13回	保護者との連携の進め方(1) (基本的な姿勢・関係構築の技法)(講義・演習) (保護者との連携の基本的な在り方や配慮事項を理解し、具体的な連携事例について知る。)(岡村)
第14回	保護者との連携の進め方(2) (トラブルの対処法を含む)(講義・演習) (保護者との実際のトラブル事例について説明する。事例の理解を通して、トラブルの対処法や回避法を習得する。)(岡村)
第15回	特別支援教育を視野に入れた学校経営と評価(講義・演習) (特別支援教育を視野に入れた学校経営の重要性を理解し、学校経営の在り方とその評価の進め方を習得する。)(岡村)

<p>成績評価の方法・観点等</p>	<p>○試験・レポート(評価割合：70%)、講義・演習への参加状況(評価割合：30%)から評価する。</p> <p>○次の点を到達目標とする。</p> <p>(1)特別支援教育の理念、基本的な考え、および新たな仕組みについて、述べることができる。</p> <p>(2)様々な障害のうち、特にLD・ADHD・ASDについて、障害特性、実態把握の方法、指導内容や指導方法、評価について、授業場面を想定しながら述べることができる。</p> <p>(3)専門機関との連携や活用、保護者との連携や支援について、その必要性や配慮事項を理解し、それぞれ具体例を紹介しながら述べるができる。</p> <p>○評価の観点</p> <p>(1) 授業における積極的な参加，討議における他者との円滑で促進的な態度</p> <p>(2) 講義内容の適切な理解とふりかえり，及び考察</p> <p>(3) 演習における発言の的確さ、発表内容の明確さ これらを総合的に判定する。</p>
<p>テキスト・教材・参考書等</p>	<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に資料を適宜配付する。 <p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児心理入門 (井澤信三・小島道生) ミネルヴァ書房 ・自閉症支援―はじめて担任する先生と親のための特別支援教育― (井上雅彦・井澤信三) 明治図書 ・自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム (渡部匡隆・岡村章司) 学苑社 ・応用行動分析入門ハンドブック (井上雅彦・三田地真実・岡村章司) 金剛出版 ・文部科学省の通知や報告書等の資料
<p>事前事後学修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修として、文部科学省による特別支援教育に係わる文書を読んでおくこと。(全30時間) ・事後学修として、提示された課題をもとに、実行できる「授業等における改善」や「学校、地域における支援システムの改善」について整理すること。(全30時間)
<p>その他</p>	<p>授業は、原則として対面で実施する。必要に応じて、同期型・非同期型のオンライン授業を組み合わせ実施する。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	学校における特別支援教育への対応と方法 ② (Special Needs Education in School: Needs, Methods, and Support Systems ②)		
単 位	2単位	担当教員	岡村 章司 井澤 信三 未定
必修・選択の別	必修・選択必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開 講 学 期	後期		
授業のテーマ 及び到達目標	<p>小・中学校等で学ぶLD・ADHD・自閉症スペクトラムのある児童生徒に対する、特別支援教育についてその全般的な概要を述べる。特に、障害理解やアセスメントの進め方、特別なニーズに応じた指導内容や方法、校内支援体制の構築、専門機関との連携、保護者との連携、教育政策・教育行政の最新の動向などについて具体的に述べる。テーマによっては、演習とする。</p> <p>なお、本授業では、現職経験のない者が受講することから、全授業を通して、実際の学校場面を例に取り、学校現場で直接生きる高度な考え・知識・技能の獲得を目指す。</p>		
授業の内容・計画	第1回	特別な教育的ニーズ (演習) (「特別な教育的ニーズ」という考え方を知り、障害の理解を深める。)(岡村)	
	第2回	特別支援教育の理念 (講義) (これまでの特殊教育との違いを比較しつつ、特別支援教育の理念や基本的な考えを理解する。)(岡村)	
	第3回	学校における特別支援教育—特別支援学校 (講義) (特別支援学校における教育内容を理解する。)(岡村)	
	第4回	学校における特別支援教育—小・中学校等 (講義) (校内支援体制を構築する意図やその際の基本的な考えを理解し、構築の在り方についての具体的な方法や配慮事項について知る。)(岡村)	
	第5回	インクルーシブ教育システム (講義) (今後のインクルーシブ教育システム構築に向けた動向について理解する。)(岡村)	
	第6回	LDの理解とアセスメントの進め方 (講義・演習) (障害の定義、行動特性、分類などについて理解し、習得する。)(岡村)	
	第7回	ADHDの理解とアセスメントの進め方 (講義・演習) (障害の定義、行動特性、分類などについて理解し、習得する。)(岡村)	

第8回	自閉症スペクトラム障害の理解とアセスメントの進め方（講義・演習） （障害の定義、行動特性、分類などについて理解し、習得する。）（岡村）
第9回	個別の教育支援計画（講義） （個別の教育支援計画の概要について理解し、作成・策定の意義について学ぶ。） （井澤）
第10回	個別の指導計画（講義） （個別の指導計画の概要について理解し、作成の意義について学ぶ。）（井澤）
第11回	特別なニーズに応じた指導内容・方法(1) 基本的な考え（講義） （個々の特別なニーズに応じた必要な指導内容を整理し、それを指導する方法を明らかにしていく手続きやその際の配慮事項を理解する。）（井澤）
第12回	特別なニーズに応じた指導内容・方法(2) 指導の実際（演習） （指導事例を元に、その有効性や課題を協議し、より適切な指導内容・方法を明らかにしていく。）（井澤）
第13回	特別なニーズに応じた指導内容・方法(3) 分かる授業づくり（講義） （発達障害の児童が参加しやすい授業づくりについて理解し、事例を通して学ぶ。）（井澤）
第14回	保護者との連携の進め方(1)（トラブルの対処法を含む）（講義・演習） （保護者との連携の基本的な在り方や配慮事項を理解する。）（井澤）
第15回	専門機関との連携の在り方（講義・演習） （それぞれの機関や制度の機能について理解し、連携を進める際の具体的な在り方を明らかにしていく。）（井澤）
成績評価の方法・ 観点等	<p>○試験・レポート(評価割合：70%)、講義・演習への参加状況(評価割合：30%)から評価する。</p> <p>○到達目標は以下のとおりである。</p> <p>(1) 特別支援教育の理念、基本的な考え、及び新たな仕組みについて、従来の特殊教育との違いを考慮しながら、述べることができる。</p> <p>(2) 様々な障害のうち、特にLD・ADHD・自閉症スペクトラム等について、障害特性、実態把握の方法、指導内容や指導方法、評価について、授業場面を想定しながら述べることができる。</p> <p>○評価の観点</p> <p>(1) 授業における積極的な参加、討議における他者との円滑で促進的な態度</p> <p>(2) 講義内容の適切な理解とふりかえり、及び考察</p> <p>(3) 演習における発言の的確さ、発表内容の明確さ</p> <p>これらを総合的に判定する。</p>

<p>テキスト・教材・参考書等</p>	<p>(テキスト)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に資料を適宜配付する。 <p>(参考書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児心理入門 (井澤信三・小島道生) ミネルヴァ書房 ・自閉症支援－はじめて担任する先生と親のための特別支援教育－ (井上雅彦・井澤信三) 明治図書 ・自閉症スペクトラムのある子どもの人間関係形成プログラム (渡部匡隆・岡村章司) 学苑社 ・応用行動分析入門ハンドブック (井上雅彦・三田地真実・岡村章司) 金剛出版 ・文部科学省の通知や報告書等の資料
<p>事前事後学修</p>	<p>○事前学修として、文部科学省による特別支援教育に係わる文書を読んでおくこと。以下がその文書の例である。(全30時間)</p> <p>「特別支援教育の推進について(通知)」(平成19年4月1日)</p> <p>「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)概要」(平成24年7月23日)</p> <p>○事後学修として、自らが実行できる発達障害のある子どもへの支援や授業づくりについて整理すること。(全30時間)</p>
<p>その他</p>	<p>授業は、原則として対面で実施する。必要に応じて、同期型・非同期型のオンライン授業を組み合わせる。</p>

授業科目区分	共通基礎科目	開設コース	学校経営コース，学校臨床科学コース，言語系教科マネジメントコース，社会系教科マネジメントコース，理数系教科マネジメントコース，小学校教員養成特別コース，グローバル化推進教育リーダーコース
授業科目名 (英 文 名)	授業におけるICT活用 (Theory and Practice of ICT Usage in classes)		
単 位	2単位	担当教員	森山 潤 永田 智子 山本 真也 森本 哲介 鈴木 正敏 羽田 潤 岡本真砂夫 福田 喜彦 森 秀樹 石原 諭 山口 忠承 笠原 恵 竹村 静夫 國岡 高宏 濱中 裕明 加藤 久恵 川内 充延 吉川 昌慶 小川 聖雄
必修・選択の別	必修・選択必修		
授業の方法	講義・演習		
標準履修年次	1年次		
開講学期	前期		
授業のテーマ 及び到達目標	学校の情報化，特に授業（教科等の指導）におけるICT活用について，その意義や効果を理解し，各教科等の授業で活用するデジタルコンテンツの作成法，ICT機器の操作法を身につけるとともに，ICTを用いて各自の目的に応じた授業を計画できるようになる。		
授業の内容・計画	第1回	○ガイダンス(森山・永田) ○教育の情報化の概要，及び現状と課題(森山・永田) 講義履修に関するガイダンスを行うと共に，ICT活用，情報教育，校務の情報化など，教育の情報化の考え方と目標，現状と課題について講義する。	
	第2回	○Society5.0を拓く情報技術と社会の進展(森山・永田・理化学研究所) 教育の情報化の前提となる社会観について最先端の研究開発に関する具体的な事例を挙げて講義する。	
	第3回	○ICTを活用した新聞づくり(森山・永田・神戸新聞社) 新聞づくりアプリ「ことまど」を使った授業の実践事例，学習効果について講義する。「ことまど」の使い方の説明，体験も行う。	
	第4回	○授業におけるデジタルコンテンツの活用(永田・森山・NHK) 授業におけるデジタルコンテンツとしてNHKforSchoolの活用について具体的な事例を挙げて講義する。	
	第5回	○基本的なICT機器の操作方法(全教員，以下同) 各教科の指導に必要なICT機器，ソフトウェアの基本的な操作方法を講義・演習する。なお，第5～15回は，教科ごとのクラスに分かれて実施する。	

第6回	○既存のデジタルコンテンツの活用と、その実践事例 各教科の学習指導におけるデジタルコンテンツの活用方法とその事例について講義する。
第7回	○デジタルコンテンツの作成に必要なプレゼンテーションソフトの基本的な操作方法 各教科の学習指導で利用するデジタルコンテンツの自作方法について基本的な操作方法を講義・演習する。
第8回	○デジタルコンテンツの作成に必要なプレゼンテーションソフトの発展的な操作方法 各教科の学習指導で利用するデジタルコンテンツの自作方法について発展的な操作方法を講義・演習する。
第9回	○デジタルコンテンツの作成に必要な動画編集の方法 各教科の学習指導で利用するデジタルコンテンツの自作方法として、動画編集の方法を講義・演習する。
第10回	○多様なICT機器の活用方法とその実践事例 各教科の学習指導で利用できる多様なICT機器の活用方法と実践事例について講義・演習する。
第11回	○各教科等におけるデジタルコンテンツやICT機器を活用した授業プランのデザイン これまでの学習内容を総合し、各教科の学習指導においてデジタルコンテンツやICT機器を活用した授業プランの立て方について講義・演習する。
第12回	○各教科等の授業で活用できるデジタルコンテンツの作成 (1) 教材の構想とデザイン 受講生各自の問題意識に基づいて、デジタルコンテンツやICT機器を活用した授業プランをデザインし、使用する教材の構想を立てる演習を行う。
第13回	○各教科等の授業で活用できるデジタルコンテンツの作成 (2) 教材の作成 前時に構想したデジタルコンテンツ教材を、ソフトウェア等を活用して作成する演習を行う。
第14回	○作成した授業プランとデジタルコンテンツの発表と相互評価 作成したデジタルコンテンツ教材を発表し、相互に評価する演習を行う。
第15回	○これまでの学習の振り返りと今後の展望 講義全体を振り返り、今後の学習課題を展望するディスカッションを行う。

成績評価の方法・観点等	<p>小レポート (30%) , ICTを活用した授業プランとデジタルコンテンツ (40%) , 発表 (30%) に, 授業への参加度・貢献度を加味して総合的に評価する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報化, 特に授業 (教科等の指導) におけるICT活用について, その意義や効果を理解する。(知識・理解) ・デジタルコンテンツの活用・作成法, ICT機器の操作・活用法の基本を身につける。(技能) ・ICTを用いて各自の目的に応じた授業を計画できる。(応用力)
テキスト・教材・参考書等	<p>教員から適宜教材を配付する。</p>
事前事後学修	<p>事前学修事項として, 現職教員は自身の所属する学習環境, 特にICT環境について現状を把握しておくこと。事後学修事項として, 構想した授業実践プランを, 今後の教育実践にいかすこと。</p>
その他	